

上：説明中のだんちょう。ぶら下げているのは首付き鶏頭



題字「ほねほねボード」前田 〇〇 団員 作

ホネホネ団通信 13号 2011年5月31日発行
 なにわホネホネ団事務局
 〒546-0034
 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館
 TEL：06-6697-6221 FAX：06-6697-6225
 wadat@mus-nh.city.osaka.jp

とびだす！ホネホネ団



なにわホネホネ団は大阪市立自然史博物館の標本作製をお手伝いするボランティア団体です。通常の活動日には団員の皆さんがせつと哺乳類や鳥類やその他の私物などを標本にしたり、しなかつたりしています。しかし自然史博物館以外でもホネホネ団員は色々な場所で作ったり、ワークショップをしたり、講演や発表をしたり、ワークショップをしたり、合宿をしたりしています。ホネホネ団の活躍は、メーリングリストや、ホネホネ団通信、雑誌記事などで目に耳にすることは多いと思いますが、具体的にそこでのような楽しいことや怪しいことが行われているのか、参加していない人にはなかなかわかりません。そこで博物館の外にとびだして、日本全国で、世界で活躍するホネホネ団を大特集です。

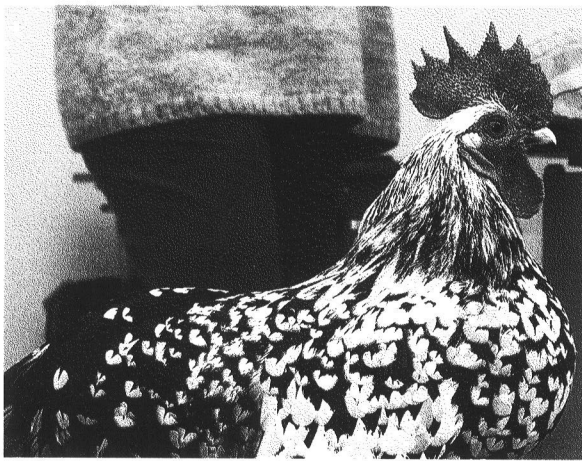
ホネホネワークショップ@岸和田

まずはホネホネワークショップの話題から。2011年1月16日に岸和田自然資料館のワークショップに行ってきました。実際の会場は公民館なので、料理教室をやっている隣の部屋で鶏頭の骨格標本を作ります。作り方はホネ通12号に載っているとおりです。材料の入手がしやすいニワトリの手羽や頭はホネホネワークショップには良く登場しますが、今回の材料はホネがふにゃふにゃの若鳥

ではなく、ホネのしつかり成長したヒネ鳥で、首付きという豪華仕様。がんばれば素敵なハンティングトロフィー？が作れそうです。午後1時半開始、5時終了という極めてタイトなスケジュールでしたが、小学生の方も含めて参加者全員無事に肉取りを終えることができました。参加者の中に多数のホネホネ団員が紛れ込んで、サポートしていたのが効いたのでしょうか。特別講師のニワトリのコウちゃんも大人気でした。終了後は自然資料館に撤収して、スタッフで整形乾燥をして完成ですが、私は片付け終了後、時間切れで帰宅しました。残念。他のスタッフの方々は夜遅くまで色々？がんばって、標本は無事に参加者の手元に届いたようです。皆様お疲れ様でした。

左：大人気のコウちゃん

佐竹 〇〇



新春！ホネホネ合宿 IN 岐阜

～水族館＋博物館まるごと楽しむ2日間～

右：アクア・トトぎふ



ホネホネ合宿レポート

怒涛のアクア・トトぎふ編

岐阜県なんてはるか彼方と置いていたけれど、大阪から快速で2時間と少々で意外に近い。電車内ですでに若者たちは大盛り上がりで遠足気分です。私も盛り上がりたいたいところですが、翌日の発表が気になるので頭の中でイメージトレーニング。JR岐阜駅に集合

して、ほぼ満席状態の貸切バスでアクア・トトぎふまで移動します。岐阜県世界淡水魚園水族館「アクア・トトぎふ」は、川や湖、池などの生き物を展示した、ちよつと珍しい淡水の水族館です。高速道路から利用できるオアシスパークの中にあるとても奇麗な建物で、入口の真正面に観覧車があります。

到着したら早速ホネホネ実習の部屋へ向きます。案内役は水族館で体験学習を担当している圓戸恭子(えんと・きょうこ)さんです。壁際に完成品の骨格標本がたくさん並べてあります。カッコイイけど、こんなきれいにできるのか？まずは魚の骨格標本の作り方について説明を受けます。

骨格標本 作成手順

- ①皮と肉と内臓を取る
- ②薬品で残った肉を溶かす
- ③整形、乾燥
- ④脱脂
- ⑤漂白



皮をむいて、肉を取って、パイプ洗浄剤に浸けて、仕上げをして、乾燥と手順は小動物とあまり変わりません。眼の下のホネやコイの咽頭歯(ノドの歯)を外してしまわないように注意が必要です。本日の材料は、コイ、

左：コイの頭処理前



左：ホネ実習中のみなさん



がいつばいいいいる！いいな。中流域のカエルがたくさんいる水槽にも引つ掛かります。ニホンアマガエル、シュレーゲル、ニホンアカヤマガエルが見つけられない。ふらふら歩いているとホネホネ団一行がいたのでさりげなく混ざります。スタッフの方がいて、魚のホネ標本に触れるコーナーがあります。好きなように触って良いとは太っ腹。子供たちに混じって群がります。ハリセンボンの体内にのタイノエを発見してホネホネ団員達が盛り上がり上がっています。アジのそれと比べて大きい！口が大きいからでしょうか？上がフルオープンで浅い水槽にイタセンパラと貝の解説があります。もちろん見張りの人はいない。放置状態。国の天然記念物でしょ、希少種でしょう？本当に入っているのか？と水草の隙間から覗くと、イタセンパラっぽい魚が確かにいます。淀川展での監視員付きのVIP待遇はいつたい何だったのでしょうか。アクア・トトぎふの大きなテーマは長良川ですがその他の地域の生き物も展示してあって、さり気無く机の上に巨大なトツケイがいたりします。カッコイイ！ってあたりで残り時間が少なくなってきました。ホネホネ団の皆さんとまわっていると、時間がたつのを忘れてしまいます。バックヤードツアーに遅刻しそう。熱帯の巨大な淡水魚たちに引つ掛かりながら急いで見てまわります。淡水魚だけでも十分見ごたえがあります。隠れているヤドクガエを探します。3種類見つけられるかな。って、あと2分しかありません！エレベーターに駆け込んで、15時半ジャストに4階に到着

です。

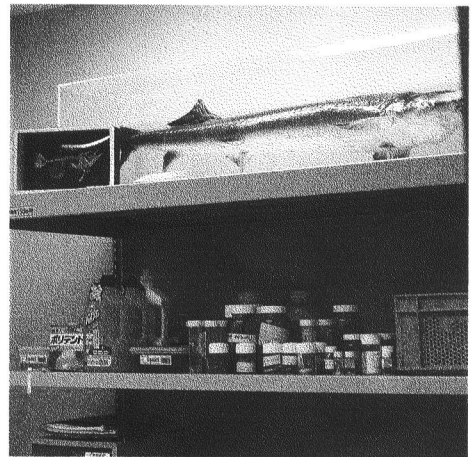


バックヤード見学は人数が多いので3班に分かれて移動します。まずは調餌室です。魚たちの餌は生魚と人工飼料を併用しています。余剰生物のストックや、到着したばかりの魚を慣らすのもこの部屋です。シロヒレタビラの孵化実験もしていました。次は両生類爬虫類の餌です。フタホシコオロギの成虫と幼虫、ワラジムシにラット。ラットは閉館中にあげるんだらうな。お客さんには見せられないよな。窓から外を見ると屋外にも水槽があります。日本産の淡水魚には季節変化があった方が繁殖させやすいものもあるそうです。水質測定は1日1時間、2時間半もくらくかかるといいます。水槽の数は展示室に約100、バックヤードに約200！大変な作業です。その向いの臨床検査室では標本作製もしているそうです。外からちらつと覗くと、チョウザメのはく製やテッポウオの骨格標本、さまざまな液浸本などがありました。水槽の裏側にはいろいろなサイズのろ過装置が並ぶのはこの水族館も同じです。



見学が終わったところに、パイプ洗浄剤処理も終わります。それでは魚の頭の標本の最後の仕上げ：処理前とあまり変わらない気がする。というか、最初からあまり変わっていない？バラバラになりそうなホネと格闘しながら肉取りを続けますが、残り時間は少なう程良いところであきらめて発泡スチロールにマチ針で固定します。魚の頭↓食べ残した魚

左：ろ過層を解説中



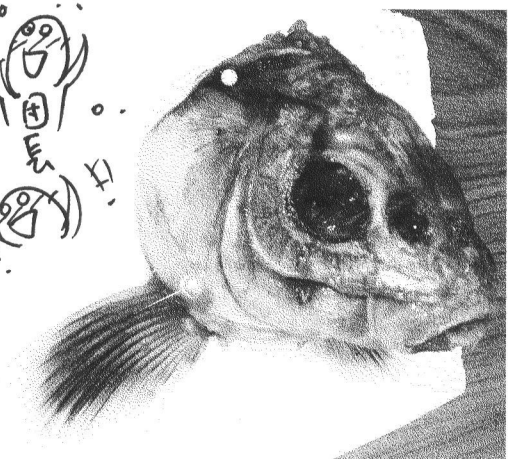
左：テッポウオやチョウザメ



の頭くらいにしかありませんでした。乾燥、脱脂、漂白はスタッフの方が処理して、家まで郵送してくれるので、至れり尽くせりで。あとから聞いた話では、もっと大胆に肉を取っても良いそうです。後片付けをしているとバスが来る17時まであと5分ほどしかありません。



りません。またもやダッシュで、バスに駆け込みます。

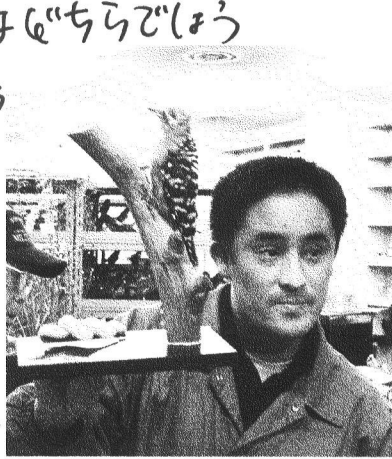


左：コイの頭処理後

漢字のかきとり中。

Q.めづらしいのは何(ちらびょう)

- 1. 4月13日かゲラ
- 2. カラウ目録でピースのわたさん



左:チャバラアカゲラと説田さん



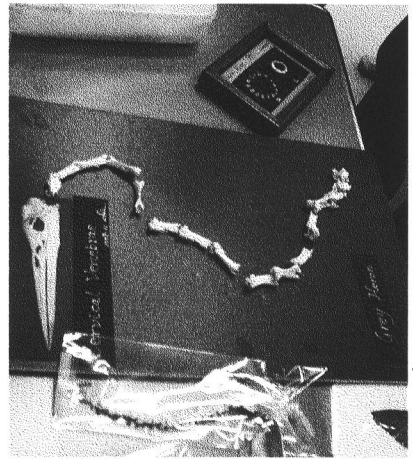
左:岐阜県博物館

酒屋の奥を占拠して満席状態。世話役は岐阜大学野生動物管理学研究センターの原口旬美さんです。あちらこちらで飲んだり食べたり工作?したりしています。紙ナプキンキノコの作り方を教えてくれました。シモクザメの頭のホネ、透明標本、私のホネタゴガエルなど標本もいろいろ出てきます。そして小牧君が宿題してる!すごい。酔っ払ってくる誰か誰だかよくわからなくなり、何時に解散したかよく覚えていないけど、全員無事?宿には帰りつきました。あ、明日の集合時間聞いていない!

↑
「はい、クラムなほす」
白熱の岐阜県博物館編

翌立朝、みんな起きてきました!良かった。バスに乗って岐阜県博物館へ移動します。岐阜県博物館も公園内にあります。こちらは自然がいっぱい。今日の案内役は岐阜県博物館、動物担当学芸員の説田健一さんです。早速ホネ発表に。私は工具や接着剤の話をしました。とりあえずホネの写真を出しとけば大丈夫だろう!時間が押していたので、巻いて巻いて早口になってごめんさい。ところどころウケたので良かったかな。

他のかたの発表は:ホネホネ団から乾さんのタヌキの病みホネ話。あれはホネにするときに砕けたりしなかったのかな。豊橋自然史博物館ボランティアの小木曾さんのトリホネ話。絶対に普通の主婦じゃないでしょう!



左:可動式サギのクビホネ

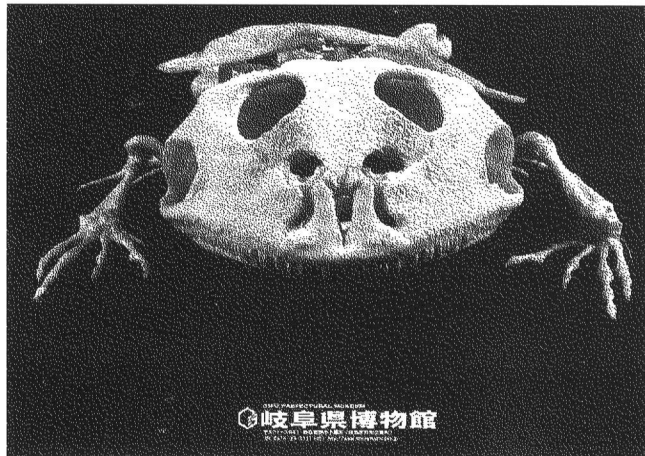
「はい、すっぴい」

骨がまっ白ですごくきれいです。時間をかけて処理しているそうで、後ほど見たダチョウのホネは2年かけたとか。東京海洋大学の中村さんのサカナホネ話。グリセリン置換はどのくらい長持ちするのでしょうか。表面だけ樹脂でコートとかできないのかな。そしてタ

イのホネ作製法ありがとうございます。生物屋さんでイラスト上手いですよね。元岐阜大学野生動物管理学研究センターの伊藤さんの救護センターで死んだ動物のホネ話。ネコ強し!ホネホネ団では完全に死んだ動物が対象ですが助けられたかもしれない野生動物が相手だと、また複雑な気持ちになるのでしようね。福井市自然史博物館骨部の丸山さんの骨部の話。標本の置き場がないのはどこも同じだな。そして長持ちする標本を最初にしつかり作っておかないと。後々残るように普段のホネホネ団の活動がんばろう。せっかくなの標本ですから有効活用しないと。そしてアクア・トトぎふボランティアの川島さんのボランティアスタッフ話。岡持ちはすごい



左:収蔵庫は大混雑



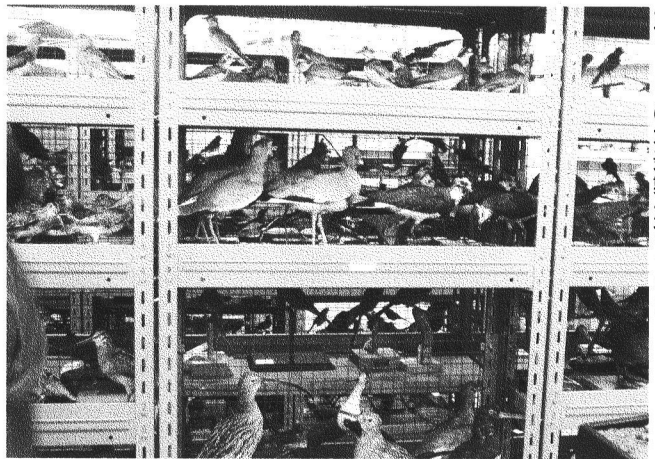
左:参加者で買い占めた解説書(裏表紙)

↑「カラウモリ」のホネか

「たぶん」売ってた



左：同じポーズの骨格標本もいたはず



左：トリの本剥製がびっしり！



左右：哺乳類の本剥製がびっしり！



左：これが半ナギドリだ！



良いアイデア！ワークショップ用のセットはあると便利です。私物標本の寄付を募ればなんとかならないかな。ホネパズルもホネホネ団のブースに欲しい！と、実に色々な刺激を受けた発表会でした。



昼食をとったら、見学タイムです。館内写真撮影禁止は残念。1階は自然関係の展示です。中央のホールに恐竜の骨格がたくさんあって豪華です。お腹や脚に縫い目があるウシガエルがいます。剥製か？聞いてみたけど古いもので詳細は不明とのこと。別の部屋にあるオオサンショウウオは型取りして皮を貼り、着色したものだそうです。これも剥製というのかな。地元だけにライチョウの剥製もあります。ヒナも成鳥も足先まで羽毛が生えていて可愛い！でもオスの目の上の「アレ」(名前がわかりません。トサカみたいなアレです。)がしなびて残念なことになっています。相川さんによると、樹脂製のものに置き換えるのだとか。内部の肉を取って詰め物をするのは難しいそうです。ちなみにアメリカでは七面鳥の剥製の需要が高いので、いろんなポーズの樹脂製の首が売っているそうです。欲しい。2階は人文関係です。美術品など多数あり、写真撮影禁止も納得です。ミュージアムショップでホネの特別展の解説書が売っていました。後で買おうと思っていたら残り16冊だけ！急いで買います。裏表紙のベルツノガエルが素敵。頭骨がこんなにイボイボとは初めて知りました。



13時半に集合して興奮のバックヤードツアーです。貝類とホネの部屋には交連骨格標本が山ほどあります。すごい、みんな興奮。オオコウモリにアルマジロいろんなホネがごろごろあります。しかも全部組み立ててある！狭い収蔵庫の中は大混雑です。台座に会社名があるので聞くと東京の標本作製屋さんで作ってもらっているそうです。値段聞くの忘れた。



液浸標本と剥製(おもにトリ)の部屋には鳥の本剥製が山ほどあります。すごい！すごい！みんなさらに興奮。スチール棚にびっしりと鳥の本剥製が詰まっています。棚が幾つあるのか数え忘れました。とにかくたくさんです。これを表に展示しないのもつたいないなく場所とか人手の問題なのでしょう。展示といってもホイと置くだけってわけにはいかないでしょうね。新潟で落ちたチャバラアカゲラの本剥製があります。日本での確認例の非常に少ない鳥だそうです。半タカに半ナギドリもいます。なんじゃそりゃって思う人は写真を見てください。仮剥製も引出しにたくさんはいつています。奥の方には床にワニが2匹いたり、特別展に使ったと思しき巨大なカブトムシの頭部があったりします。まだまだ標本を詰め込む余地はありそうです。



植物と昆虫と剥製(哺乳類)の部屋には哺乳類の本剥製が山ほどあります。すごい！すごい！みんなもつと興奮。アルビ



ホネホネ合宿IN岐阜

2月26日朝4時45分目覚めた。前の日から集合に遅れたらどうしよう、と心配していたせいか、5時45分と思い込み両親を起こしてしまった。大阪駅に6時15分集合だったので家を6時に出なければならぬので勘違いしてかなりあせった。集合場所に着くと、すでに何人かいてほっとした。よし君の家族には朝からともびつくりさせられた。うちは父だけの見送りだったが、ついてきてくれただけでも嬉しかった。みんなそろって、電車が出発、いよいよだとワクワク。にじさんたちとお話ししたりして、あつという間に岐阜に到着した。岐阜駅では、団長たちが待っていてくれて「早いな」と思った。バスに乗ってアクア・トトぎふへ。

着くとすぐに実習。わたしは、オオクチバスの頭だった。小さかったのでびつくりした。小さいので簡単かなと思ったが、うろこが硬くて剥くのが思ったより難しかった。肉もきれいに取れず出来栄えは自信ない(涙)。でも、アシカのシヨーを見て(アシカの物まねはかなり得意)お昼ご飯がめちゃくちゃおいしかったので、機嫌も回復した。館内見学をしたかったけど、時間が無くバックヤードツアーになってしまった。バックヤードツアー

は、餌の虫が気味悪かったが、水槽を上からのぞいたり、水を綺麗にする機械を見たりするのはいいものを見た感じが強かった。実習のところに帰ると頭骨はとも綺麗になっていて、ほんまにわたしのか?と思うほど。ユニツシュウ万歳!アクア・トトぎふ、お世話になりました。

その後バスで帰り、岐阜県から宿舎へ向かった。合宿所なのにまるでホテルで気分は一気に盛り上がりノリノリになって「ホネ宴会」へ。よし君が、宿題を置いてびつくりしていたが、すっかり忘れていたというのに...さすが!!素材屋さんでは、エイヒレとピザがおいしかった。みんな大人はお酒飲んでわたしはウーロン茶(涙)。早く大人になりたいと強く思う瞬間だった。最後に蜂蜜とアイスの乗ったべとべとしたトーストを食べさせられた。甘いもの苦手なうえにかなりおなかいっぱいだったのでちよつと困った。その後子供と眠い人はホテルに帰り夢の中へ...。橘さんを待とうと頑張ったけど寝てしまった。

次の朝、7時半に目が覚めた。朝ごはんを食べて岐阜駅に出発。バスで岐阜県博物館に行く。発表会では乾さんと佐竹さんと福

井博物館の話が興味深かった。帰ってから、忠犬ハチ公の死因の記事をみて(3月2日付)、たぬきの病み骨と同じ病気だったとかで、びつくりした。その後団長が買ってきてくれたお弁当を食べ(おいしかった)外で散歩したりして楽しんだ。いよいよバックヤードツアー。鳥の剥製がたぐさあった。フウチョウが特に気に入った。鷲とウサギの剥製もよくできていて面白かった。半分剥製半分骨格標本もありどうやって作ったのか興味津々。売店では、「骨のあるやつ」を買った。岐阜県博物館、どうもありがとうございました。

楽しい時間も過ぎバスで帰途へ。岐阜駅で解散。電車に乗るまで母に頼まれたおみやげを探し、明宝ケチャップを買った。電車で岩佐さんと「骨のあるやつ」を見ながら語りつつ、またまたあつという間に、大阪駅に着いてしまった。楽しい2日間が終わり、悲しい...。もう一度行きたいくらい。企画していただき、連れて行っていただき感謝感激の合宿だった。

おしまい
久保





アクア・トトぎふ 魚のホネ実習



平成23年2月26日(土)・27日(日)、ホネホネ合宿in岐阜が開催されました。なにわホネホネ団を筆頭とするh.o.n.e.t有志が岐阜に集い骨まみれの二日間を過ごすという、なんとも熱いイベントです。第1日目はアクア・トトぎふが皆さんをご接待、ということになり、前日から私やボランティア「骨部」の面々で会場準備をしました。この企画、数か月前に団長さんと相談して決まったんです。が、全国から骨好きが集まる！と聞いてうちの骨部のメンバーは大喜び。「団長さんも来るんだよね!」「ホネホネ団の人にいろいろ教えてもらおうね!」「あの人とかこの人とか来るかなあ?」と、わくわくしながらその日を待っていたんです。うふふふ、たーのーしーみー。

さて、当日朝。大阪組を駅にお迎えに行つたスタッフから「もう出ます」の一報を受け、会場でスタンバイしていると、自力で来館した人たちが早くも入場してきました。おお、常連の子もいるぞ。お客さんと話をしつつ受付をしていると本隊が到着!どつと皆さん会場に入つていらつしやいました。プリントなどを渡しながら、よしよし時間通りだ、じゃあ順に席についてもらつて...なんて思つてい

たら、受付もそこそこにみんな会場の隅に飾つておいた骨の周りに集結しています。しばし写真を撮る人々。さすが骨好き、骨のニオイは見逃しません。でもこのままじゃ実習が始められません。無理やり着席していただいて、最初のプログラム「魚の頭骨標本を作ろう」スタートです。

今回準備した材料はコイ、オオクチバス、ブルーギル、サバの頭の4種。コイは近くの川魚料理店「喜多川」さんから(絞めた時の都合上頭頂部にひび有)、バスとギルは琵琶湖の外來魚回収ボックスから(夜中にこっそりあさった)、サバは水族館の餌の残りから調達してきたものです。魚の紹介と、作業手順の説明をしていざ実習開始!

こういった標本作りのプログラムは、概して時間がかかるものです。かなり余裕を見ておいても、時間内に終わらない人が出てくるのが常なのです。でも今回のお客様は骨のスペシャリスト。日頃からタヌキだのイノシシだのクジラだの、大きな骨を触り慣れているベテランばかりだし、ちつこい魚の頭なんてあつという間にできちゃうんじゃないかなあ、もしかして時間余っちゃう? などと思つていたのですが、哺乳類鳥類とはかなり勝手が違うようで、みなさん意外に超慎重です。「骨がすぐどっか行っちゃいそうでこわいー」

と云つてる方も。確かに魚って、骨外れやすいイメージあるでねえ。でももつとガンガン肉取つても、意外に大丈夫なんやよー。

が、定刻を過ぎても空腹も忘れて熱中してる人が大勢います。心ゆくまでやっていただきたいのはやまやまなのですが、ああでもあんまりのんびりしていると、骨をパイプユニッシュ(2倍希釈)に浸ける時間がなくなつて



しまう。心を鬼にして残っている人をせかし、
実習を終了しました。



ここで参加者の皆さんは館内見学&お昼ご
飯です。が、スタッフは道具の片付け、会場
の掃除と大忙し！あちこちにこぼれた肉片
及び血痕を拭き取る人、道具類を洗う人、ま
るでおでんを煮ているかのように、薬液に浸
かった骨の面倒を見ている人。いろんな臭い
がたちこめる中、平然とおにぎりを食べてい
るホネホネ団の誰か。まるで戦場のようでし
た。

あ、昼休み中に、館内のショップに立ち寄っ
て下さった方も大勢いらしたようですね。あ
とから売店スタッフが「なんか今日、普段売
れないマニアックな商品がものすごく出たん
だけど、やっぱり関係者の団体さん？」と申
しておりました。お買い上げありがとうございます☆



さてさて、なんとか片付けを終えたら午後
の部、バックヤードツアーです。これ、トト
の人気プログラムなんですけど、4階と2階の
バックヤードに入り、餌生物飼育室や調餌室、
機械室などを見学する、というツアー（約30
分）です。水族館の裏側を見るのは初めてと
いう人も多く、みんな興味津津のご様子でし
た。博物館のバックヤードって、しん〜と静
かな場所も多いと思うのですが、水族館のは
ポンプが轟音をたててうなっていたりパイプ
が縦横無尽に走っていたりして大変やかまし
く、なんだか工場みたいなんですよね。かと

思えば、実験室のような部屋もあったり水槽
がずら〜と並んでいる部屋があったり、ご
ちゃごちゃ入り組んでいてまるで迷路です。
就職したてのころ、私たちスタッフもどれだ
け迷子になったことか…。



ツアーを終えて部屋に戻ると、ユニットシ
ュ処理を終え水洗いした骨たちが、皆さんを待
ち受けていました（間に合った…。川島さん
村瀬さん横山さんありがとうございます）。でもあん
まり時間がありません。大急ぎで残った肉を
そうじして、発泡スチロールの上で形を整え
て、頭骨標本作りの実習はおしまいです。お
お、もう5時だ。バスが来ているぞ、早く乗
りこめ！誰だ宛名カード書かずに行っちゃっ
たやつは?!



怒涛のような一日でした。
夜は夜で楽しい宴会があつたのですが、そ
ちらについては誰かほかの方が書くんですよ
ね？ いろんな骨談義が聞けて、団長もいい
感じにお酒が入って、非常に楽しい数時間
でした。



初日の実習、最後の方は時間がおしても
う、ばったばただったのですが、なんとか無
事に終えることができました。ちよつと盛り
だくさんすぎたかな？という意見もありまし
たが、アンケートを見ると満足していただけ
な感じだったので、ほつと一安心です。岐阜
と大阪でせっかくだってきた骨のご縁、これか
らも続けていきたいものです。また名古屋あ

たりで骨飲み会しますので、お時間あるかた
はぜひどうぞ。またhoneetで告知しま
す。



ではでは、皆様ご来館どうもありがとうございます
ございました。またどこかの骨の下でお会い
しましょう！

圓戸恭子



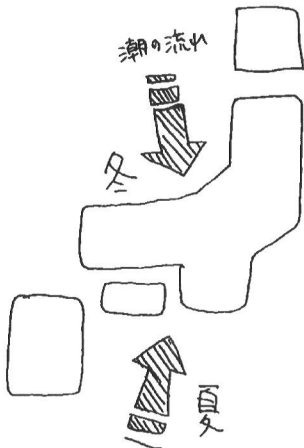
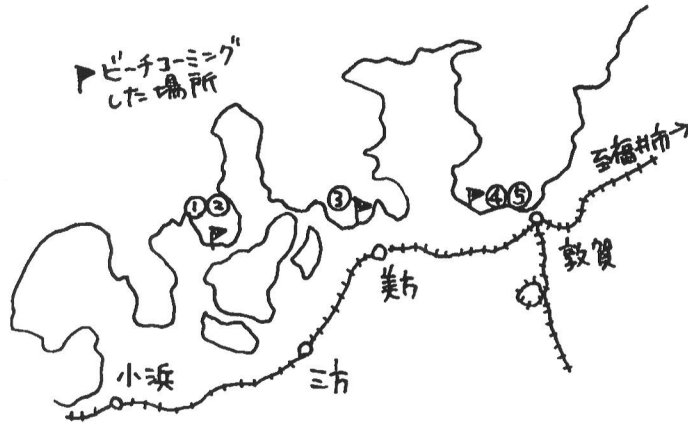


福井県ビーチコーミングの旅

9月7日から11日までの5日間、福井県へビーチコーミングに行ってきました。初めは高知県沿岸の予定だったのですが、台風直撃との予報から2日前に勢いで福井県に変更しました。

1日目は三方駅から10キロほど歩いて、若狭湾を見るべく海沿いの宿まで行くのが目的でした。宿に着いた5時頃からは天気がかラツと変わり、天気予報を見ると高知県へ直撃するはずの台風は進路を変えて、なんと私たちの真上を通過するコースをとっていました。残念すぎます…。

2日目は風が強いものの外には出られたので、浜を見ながら3キロほど歩いて若狭三方マリンパークへ行くことにしました。目を凝らして何か落ちていないか探しましたが、フナムシ以外何も見ることは出来ませんでした。マリンパークでは三方の浜に流れ着いたクジラやイルカの頭骨、海外から来たゴミやブイが展示されていました。小さい博物館ながら、展示にクイズをつける等工夫がされていてとても楽しかったです。見終わったあと窓口で学芸員さんから、ビーチコーミングに良い浜やシーズンを教えていただきました。



(図) 夏は高知県など四国地方で死体や骨があたり、冬は福井県など日本海側でよくあがる、とのことでした。つまり私たちは台風にそのかされて、ビーチコーミングのポイントとは間逆の所に来ていました。おかげで未だ収穫物はナシです…。

宿に戻って会議した結果3日目は美浜歩き、そのあと敦賀へ向かうことにしました。3日目は美浜でコンビニを見つけたこともあり(宿まわりのお店がなく1日目からほぼ水で過ごしていました)、元気がいっぱいビーチコーミングできました。そのお陰か骨神様がほほ笑み、小鹿とおぼしき頭骨の一部と様々な貝殻、カワハギの骨が拾えました。

4日目は敦賀駅で自転車を借りて氣比の松原へ。観光地なのでどうかなくと思いましたが、カワウとトビの死体が拾えました。先日の台風で流れついたのでしょうか。長い時間海水に浸かっていたようですが、かなり状態

は綺麗でした。5日目も自転車で海岸沿いをひたすら北上しました。汗だくになりながらも、途中でスカシカシパンとハボウキガイを拾いました。大きな骨は特に何もなかったです。

5日間で感じたのは、季節によって変わる風向きと潮の流れから、良い場所を見出さないといけないこと。専門家のところによく情報収集をすることで(ネットにはあまり出ません)。ビーチコーミングは意外と体力がいりました。でも、旅行先や出かけた先で浜があつたら少しでも見てみる。というような手軽さもビーチコーミングは兼ね備えていると思います。

みなさんも貝・骨探しに浜を歩いてみてはいかがでしょうか? ここに書いた情報が少しでも参考になれば幸いです。

森下 ミチ子、山田 エミ





ウミガメ顛末記



12月2日(木) 晴れ

旦那と愛犬クロとの散歩中、天然記念物となっている鳥の巣海岸の砂浜に降りきれいな貝殻を探していた。突然「ぎゃ〜」とも「ひゃ〜」ともつかない声を旦那があげた! なに? と振り返ると1歳くらい後ろへ旦那が飛び退っていた! 視線の先を見ると、そこには…ウミガメがいた! いや正確にいうとウミガメの漂着死体だ。しばらく前に水族館の授業でウミガメの見分け方を習ったので近寄ってみた。「頭の形からしたらアオウミガメみたいよ」「いや〜そんなに近寄らないで」旦那は半泣き状態である。私は携帯を取り出し前から後ろから上からとパシャパシャ撮りはじめた。旦那もハンカチを出して口を覆いながら現場写真?を撮りはじめた。



甲長は約70センチ。眼窩からは落ち込んだ中身が少し見える。かすかに腐敗臭がし、ハエも数匹たかっている。カメの周りに足跡はなしているのに胸が熱くなる。帰らなかつただろうに。死因はなんだったのだろうか? ビニールをクラゲと間違えて飲み込んで死亡するケースが多いそうだが、この子もそんなのだろうか? できることならうちに連れてきたかっ

た。でも旦那が泣くだろうから止めた。仕事柄、水死体に関わることがよくあり、動物の腐敗臭でもその時の臭いがフラッシュバックしてくるのだそう。ある意味職業病なのだろうと同情する。家に帰ってから以前講習でお世話になった串本水族館の副館長さんへメールをし、この後どうすればいいか指示を仰ぐ。今後の成り行きが楽しみである。



12月3日(金)

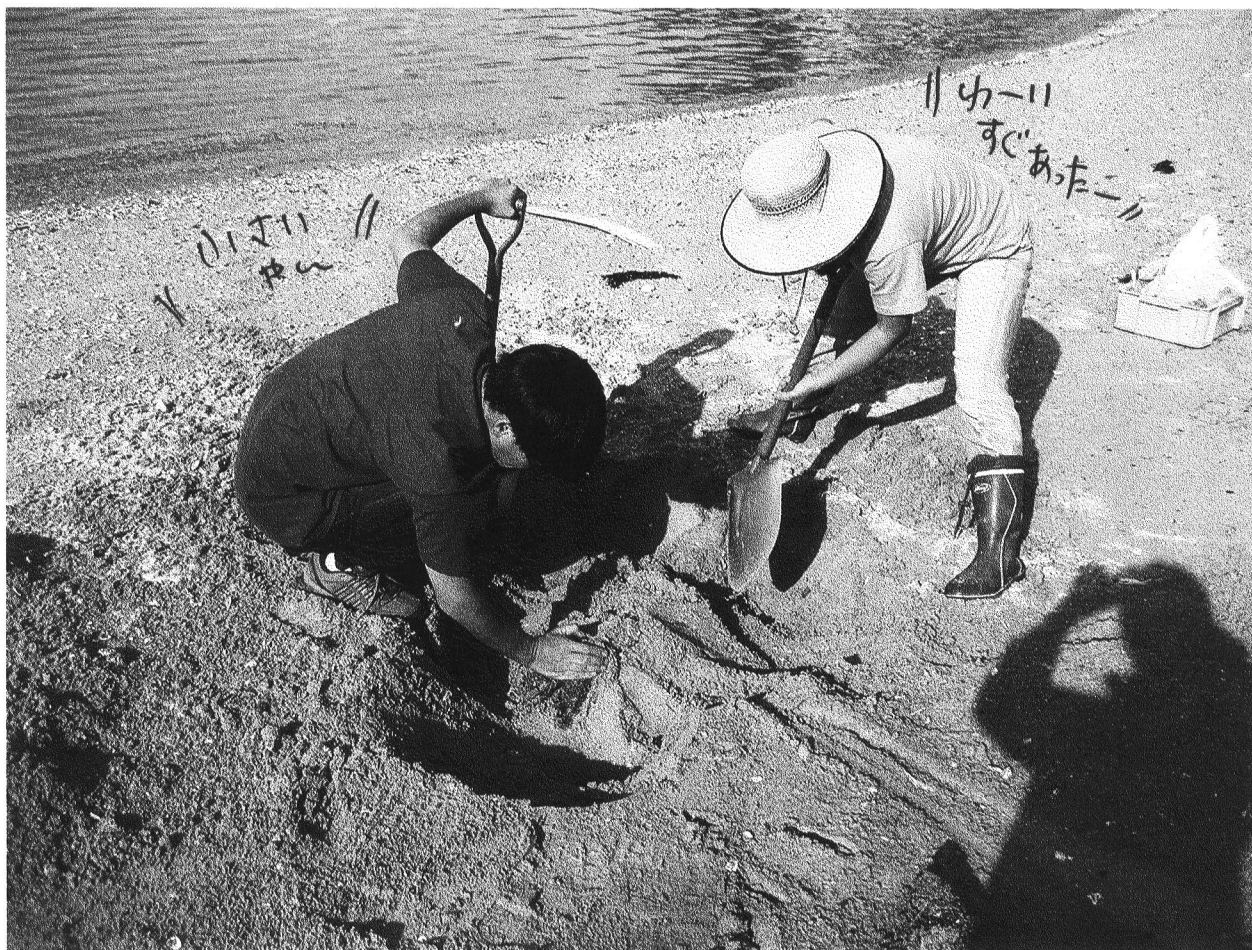
串本よりメールの返信があった。「ウミガメ協議会へ漂着の連絡はしておくが、死体の引き取りはできない。自分で砂に埋めるのもいいし、手におえないと思うなら市役所へ連絡するもよし、好きにしていよいよ」とのこと。自分で埋めるにしても、どのくらいの深さにとどのくらいの期間埋めたらいいのか全く見当がつかない。ヒントを求めて「なにわのほねほね団」をネットで検索してみる。死体を見つけたら地元の自然史博物館へ連絡するのが一番いいと書かれていた。まちがっても水族館には連絡しないでとのこと。あちゃ〜、早速やっちゃったよ…まあ仕方ないか。気を取り直して和歌山自然博物館へメールをする。今度はどんな返事が返ってくるのか楽しみである。



12月4日(土)

左:砂浜に横たわるウミガメ





左：作業中の団長、事務局長と撮影する酒田さん（影）

す？」との団長の言葉に「いえ、見学だけで結構です。中学以来解剖なんてしたことないから」と逃げ腰の私だった。夜になって「なうだったけど、実際には上の甲羅も縁取りと網にわのほねほね団に入会したい」という気持ちでだんだん強くなってきた。でも、この会は狸1匹を一人で解剖できる技術がないと入団できないそうだから難しいだろうな：と自問自答する。解剖はできないだろうけれど、なんらかの形でなわのほねほね団の応援団員となる日もそう遠くないだろうなとわくわくしながら眠りについた。

12月23日（木）



いよいよアオウミガメとの再会？の日。久しぶりに都会に出るので、何度か和田さんにメールを送り博物館の場所を確認する。どきどきしながら開始時間の10時ギリギリに会場に入った。解剖なんて中学のカエルが最初で最後。カエルの時はエーテルで死にそうになりながらメスを奮ったので『また臭いで気持ち悪くならないかな』と不安がかなり強かった。しかし、今回はエーテルは使用されなかったので大丈夫だった。でも海の水の臭いの強烈さには別の意味でびっくりした。石鹸で洗っても洗っても臭いが取れない。（家に帰ってゆず湯で使ったゆずをぐちゃぐちゃに握りつぶしていたら、臭いは驚くほどあっという間に消えました。みなさんもぜひお試しあれ）

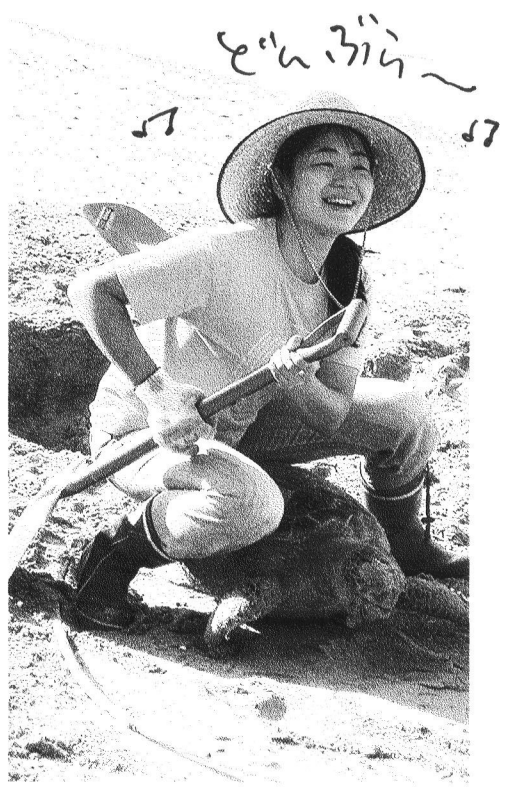
おまけ
「なにわのほねほね団」とのなれそめ



和田さんがウミガメを計測されたあとメスを甲羅の上下のすきまに差し込み分断すると、いう段取りが組まれていた。イメージとしてウミガメはガチガチの甲羅に包まれているようだったが、実際には上の甲羅も縁取りと網目状の骨とにわかれており軟骨がたくさんありメスはざくざくと差し込まれていた。始めは見ているだけのつもりだったのだが、そのうちに何かやりたくなくなってしまった（笑）。そこで甲羅に残った肉をメスでそぎとる仕事をさせてもらった。これはちまちまとできる作業なのでとても楽しかった。一方甲羅の中の内臓を処理されているお二方は、大変そうだった。臭いもあるし陸上の獣たちと違ってどこにどの内臓があるか見当がつかないとのこと。しかし2年目の団員さんは5時間ほどで解体を終了された。さすがだなくと拍手。パチパチパチ。ホルマリンにつけてから展示までにはかなり時間がいるらしいけど、こうなったら最後まで見届けようと思つた。こうして私もすっかりほねほね団予備員に。

今から3年前の秋、イベントで子供たちをどんでん返りで遊ばせることになり、どんでん返りの本を探していました。そんな時に本屋で手にしたのが「盛口満著、ドンダリの謎」だったのです。精密だけど温かみのある絵、軽妙でどんどん読みたくなる文章にすっかりはまってしまった私。気がついたら「骨の学校」「僕らが死体を拾うわけ」「ゲッチョ先生を甲羅の上下のすきまに差し込み分断すると





上：行先は竜宮城か、はたまた三途の川の向こう岸？

21冊が手元。その中で「マキコ」「ミノル」という名前の生徒さんは私の頭の中にしっかりインプットされたのです。また、ゲッチョ先生の本には西澤声「子さんの書かれた絵がよく登場しておりました。おお！あの「マキコ」さんだ！（笑）福岡名物「ひよこ」を連想させるほのぼのとした挿絵も大好きでした。（初めてお会いしたときはあこがれの「マキコ」さんが目の前にいると大感激でした。感激のあまりツーショットで写真を撮るのを忘れてしまって…残念）さらに「生き物屋図鑑」の中で鳥屋として登場されているのが和田さんだったのです。本の中では和田さんの年齢は書かれておらず、そのため私は勝手に「学生員11歳をとったおじさん」というイメージを抱いておりました。ウミガメを引き取りに来てくださったときに団長に「和田さんってお若いんですね」という言葉を吐いたのはこういう理由があったのです。その時の団長の答えは「若く見えてはいるけど、そう若くもないんですよ」だったのですけど（笑）

大阪には「なにわのほねほね団」がありマキコさんが団長を務めていらつしやる、いつか見学に行つてみたい、でもおそろく縁がないだろうな、というのが実感でした。ゲッチョ先生とは交通事故死をした雉の死体を沖繩へクール便で送つたこともあり、ご縁ができておりました。今回ウミガメもゲッチョ先生に連絡しようと思つたのですが、パソコンを変えたときにアドレスが消えてしまい、メールをすることができなかつたのです。もし、アドレスがわかっていたら、ほねほね団ではなく沖繩にアオウミガメは海を渡つて行つたのかも知れません。他の博物館に引き取られていたらほねほね団とは繋がつていなかったのです。こういう小さな偶然が重なつて、必然になり、結果がうまれるのだと思います。今回ウミガメ子ちゃんが続んでくれたご縁、これをこれからも大切にしていきたいと思つます。

酒田トビウ

とびだす！ホネホネ団 遠征特集

2010年秋台湾ホネホネ紀行

絶品だった。

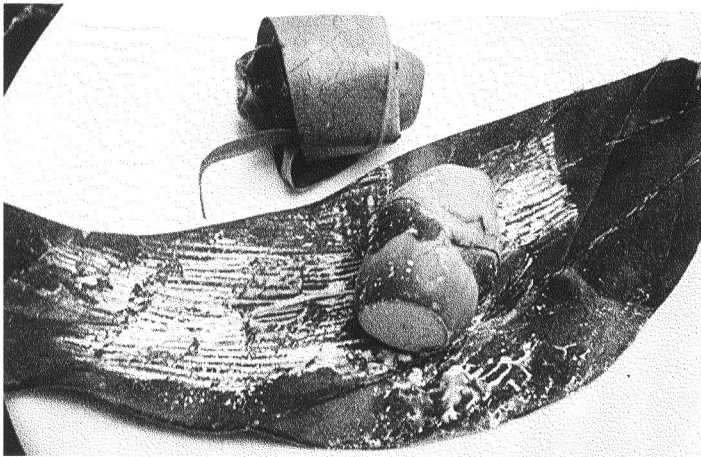
昨秋、縁あって台湾で開催された野生動物保育医学国際検討会にて、なにわホネホネ団の活動を発表する機会を頂いた。あご足つきで招待してくれるというので断る理由はない。世の中にはこういった間違いが時折発生するらしく、有難く好意に甘えさせていただけとした。11月初旬とはいえ台湾は沖縄より南。鳥偏Tシャツの上は自然史博パークでちょうど良かった。関空から約3時間で桃園（タオヤン）国際機場に着いた。ピックアップは嬉しい事に特有生物研究保育中心の美人獣医さん。でも彼女は1時間ほど後の便で着く別の先生も拾うとかで、台湾語オンリーのおっちゃんが運転する先発隊の四駆に積載され、台湾中部の南投県集集（ジジ）村へ！互いに共通言語がなく高速道路で約3時間、実に静かな陸路であった。

検討会は口演会2日とエクスカーション2日。ホネホネ発表は初日午前中、お題目は「日本民衆的野生動物大體科学」。40分の持ち時間をフル活用して血に飢えたホネホネ団の雄姿をパワポで紹介した（写真）。熱く語らせていただいたポイントは、「無碍に廃棄される動物死体が人々の好奇心と博物館の需要が一致した時、貴重な学術標本に生まれ変わる。ユニークな仲間も多く、視点も多様になりサミットも主催した。死体科学のポテンシャルは奥深くもパワフル」。参加者は台湾、米国、日本の野生動物医学専門家であったが、素人集団でも熱意さえあればプロ並みの仕事ができるという事例や、大人に交じつて成果を出している小学生団員の姿にフロアーから賞賛の声が上がった。団長本を例示して、SOP（標準操作手順）がきちっと定まった真面目なプログラムである事を強調したのも高い信頼性を印象付けたようだ。

- ・台湾野鳥禽流感監測（鳥インフルエンザです）
- ・南台湾野生食肉目動物感染犬瘟熱ウイルス研究（ジステンパーやん）
- ・台湾南部地区鯨豚的擱淺搶救與病理学研究（ストランディング救助や解剖）
- ・台湾野生両生類動物感染蛙壺菌之普查（カ



左：写真1 ホネホネ団の活動について発表中



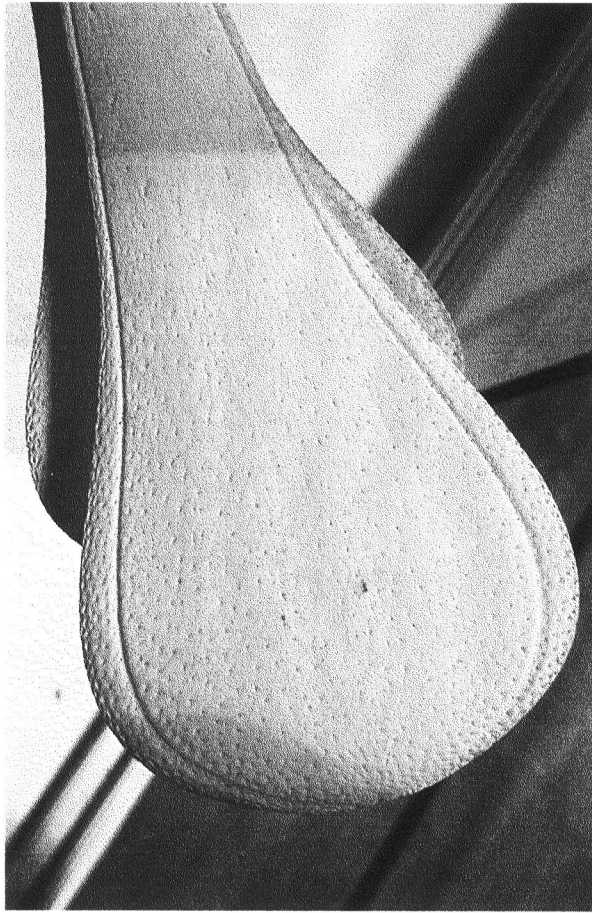
右：写真2 悪名高い？ 檳榔

エルツボカビの網羅的調査らしい）
 などなど、人獣共通伝染病や環境破壊からの
 野生動物保護といったメインディッシュな演
 題に比べ、ホネホネ団の武勇伝は味噌碗中の
 麩のごとく浮きつばなし。しかしキワモノも
 ここまでくると逆に聴衆のハートをがっつり
 掴み、無事務めを果たす事ができたのであつ
 た。



検討会初日に開催された晩餐会にはいろん
 な地元料理と地酒、少数民族バンドの生演奏
 で喰って飲んで歌って踊ってプラトニックな
 酒池肉林。で、こういう酒席にお約束、悪名
 高い檳榔（写真2）を誰かが持ちだした。甘

く見てもらっちゃいけないぜ。こう見えても
 毒の専門家である。「中毒反応をちゃんと観
 察しようぜ」と毒草の精霊が耳元で囁く。が、
 身近にモルモットやモノ好きな若き団員もい
 ない。仕方なくわが身を科学に捧げることに
 した。以前、試みた時は無反応だったので今
 回は2個同時に口に入れた。相変わらず不味
 い。渋い異物感が口腔の不快感を跳ね上げ
 る。我慢して噛んでいると数分後に強烈なめ
 まいに襲われた。国際ルールに違反して嘔み
 滓をティッシュに吐きだすと真っ赤に染まっ
 ている。生肉を喰った人狼みたい。これが嫌
 われる理由の一つである。めまいは10分ほど
 で消えた。デジャブの囂の中、記憶の網を手
 繰り寄せると、「あゝこの感覚、煙草を初め
 て吸った時のや」。ニコチン類似構造を持つ
 アレコリンが我が神経系のアセチルコリン受
 容体にちゃんとかくつついたことを、身をもつ
 て体感したのであった。偉いぞ自分。ちなみ
 に、檳榔には発がん性があるとWHOが保証
 してくれているため良い子は真似しないよう
 に。著者は毒草おたくであると同時に、がん
 に罹らないと強く決心している。しかもA f
 r a c 種のアヒルに毎年多額の餌代を払って
 いるので、もしもの時は家族にとつて心強い。
 あれやこれやでセッション2日目は途中で抜
 け出し、一般展示会場でやっていた特別企画
 「蝙蝠展」に忍びこんだ。台湾は大小の野生
 コウモリが生息する蝙蝠天国らしい。U先生、
 ぜび台湾の穴に潜ってくださされ。そのあとは
 ちゃんと戻ってきて最後の演題まで良い子で
 いたのでご安心を。

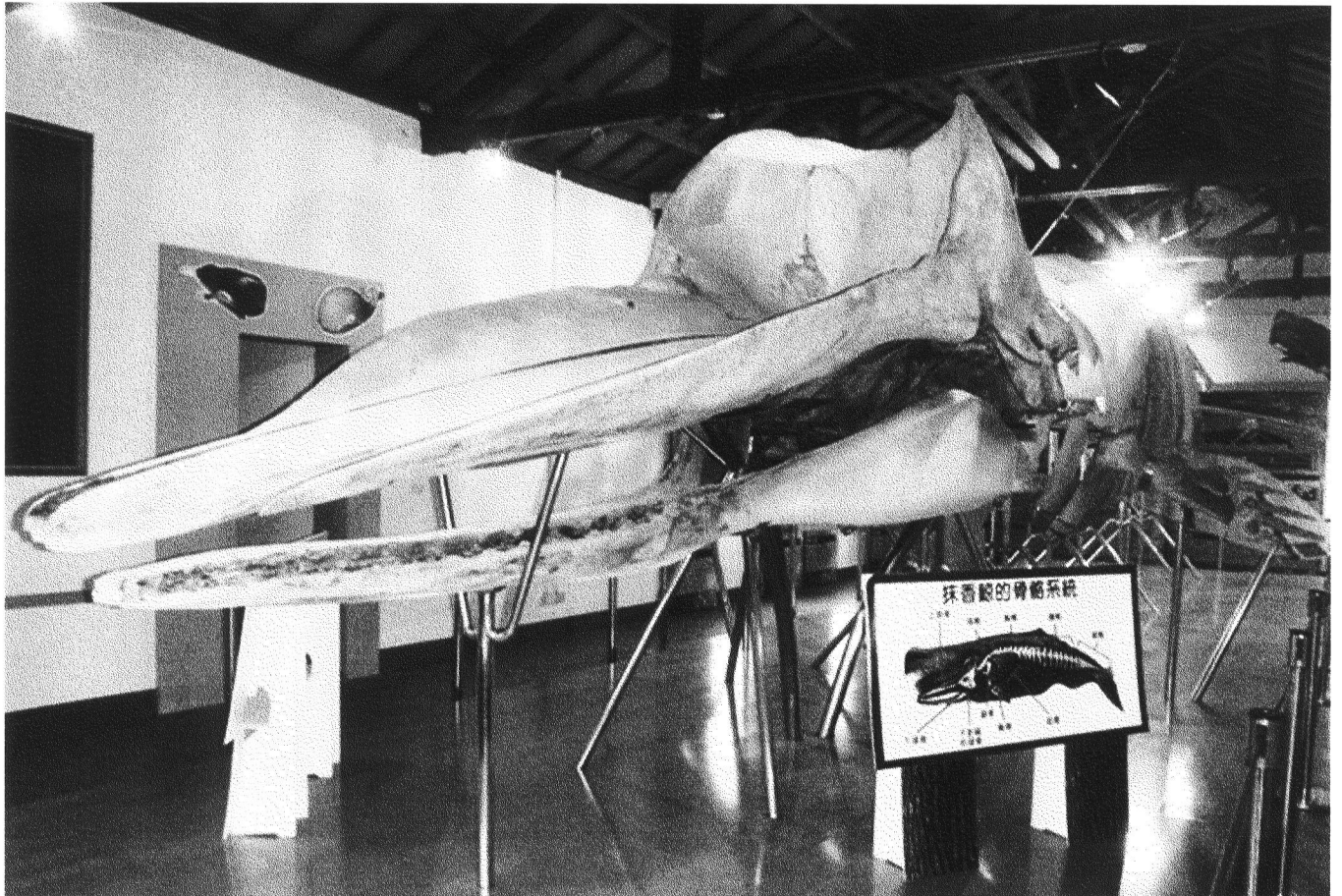


上：写真3 クロツラヘラサギのクチバシ

さて3日目からはエクスカーションで台南に移動。台湾南西部の海岸は塩田や魚の養殖場、遠浅の干潟が続く。その一角の七股湿地は黒面琵鷺(クロツラヘラサギ)の越冬地で、特有生物研究保育中心の支所がある。施設から数百メートル彼方の干潟をプロミナで覗くと、いるわいるわ、シャモジみたいな嘴を生やした黒面・黒脚の中型の白鷺の群れ。絶滅危惧IA類らしいが、夏場はイムジン河畔のDMZ(南北朝鮮非武装地帯)を繁殖地にするという国際的にしたたかな連中である。ホネ神様を拝見したところ、上下の嘴のホネに多数の窪みがある(写真3)。おそらく血管や神経の走行に関与していて、敏感なセンサーとして干潟の小動物を捕食するのに都合がよいのであろう。午後は国立成功大学の台湾鯨豚館に移動し、王建平教授にYouTu

beで有名な爆発マッコウクジラのホネ神様を紹介いただいた(写真4)。我らがまっちゃんより一回り半は大きい雄の成獣。大型トレーラーで搬送中に台南市街地で我慢しきれず大爆発！町はもう大騒ぎさ。王教授のご専門はストランディング鯨類のリハビリと病理学的研究で、科博の山田格さんともご親交が深いとか。鯨切り込み隊長のT団員にとってはパラダイスかも。台南のお勧めはこの鯨豚館と、海鮮料理にタウナギの炒めもん、担仔麵と棺材板。

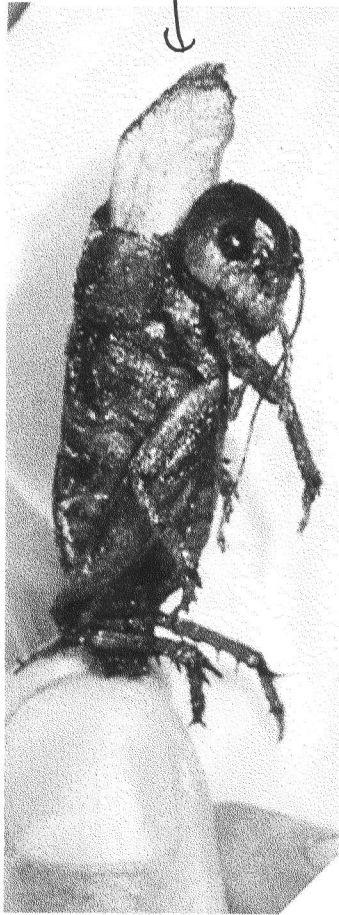
エクスカーション4日目は台湾最南部の国立屏東科技大学野生動物保育研究所。ここは以前からどうしても訪れたかった施設で、台湾に違法に持ち込まれた野生動物を救護している。広大な大学敷地の一角があたかも動物園ようになっていて、テナガザルやオラン



上：写真4 一部では有名な爆発マッコウクジラ

↑この再現図ですか？

何が
ささっているの?



上：写真5 フライドクリケット

最終日は高雄近郊の左営駅から台湾高速鉄道、つまりオレンジ色の台湾新幹線に乗って桃園駅まで約1時間半、シャトルバスに乗り換え空港に。今回はフリータイムがなかったので、空港のカフェで小籠包を喰ったけど、

美味かったけど先生、物には限度つてえもんが。最後のお泊まりは大学のゲストハウスでした。



そうそう大事なことを忘れていた。今年のホネホネサミット2011で台北動物園標本作製技師の詹徳川(チャンテチュアン)さんの実演があります。諸君、サミットで彼のテクニクを盗むべし!



台湾は世界一の親日国。繁体漢字表記で、何処に行っても判りやすい。また食材に日本と共通するものが多く、喰いもんにも不自由はない。コンビニも多い。物価もそれなりに安く、人々は南国気質でよくよせず、日本で言うところの宮崎の「てげてげ」に近いかな。電脳先進国で結構な田舎でもネット環境は整備され、携帯電話も通じる。サンゴ礁の島嶼部から富士山より高い雪山もあり、風光明媚な南国なのだ。ただし日本語教育を強制された世代の方々も結構おられるので、迂闊なことを言うとは大変失礼。ややこしい事は考えず、麗しのフォルモサ(台湾の古い呼び名)を楽しまう。請到台湾来、謝謝。



めっちゃ美味。大満足で帰国の途についたのであった。

9時30分東京大学総合研究博物館前にて。遠藤さんじききに迎えに来ていただき、恐縮です。案内された2F事務所には綺麗な受付嬢。この時点でテンションが上がり、奥へ

2009年のホネホネサミットで講演してくれた遠藤さんその後日「お疲れ様でした。聴きやすくてとても楽しく学ばせていただきました。そして、近々東京へ行く用事がありますので、東京大学総合研究博物館で何かイベントや展示などありましたら教えてください。」と書きましたところ、「その時期は論文の時期で忙しいこともありませんが1時間程度時間取れますのでお立ち寄りください。」とお返事が来ました。それがうかがうことができました。

行ってもっとテンションのあがる出来事が... 乾さんが座っていました。わっ!びっくりしました。はじめに地下実験実習室へ。



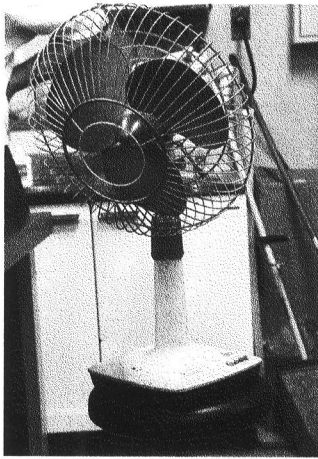
国立科学博物館バックヤード見学記

わたくし
本館林(の)園ちかくの
お店で売ってる
パイナップル
トーマスが
大好きだよ。
おいしいです。
とびだす!ホネホネ
特集
遠征

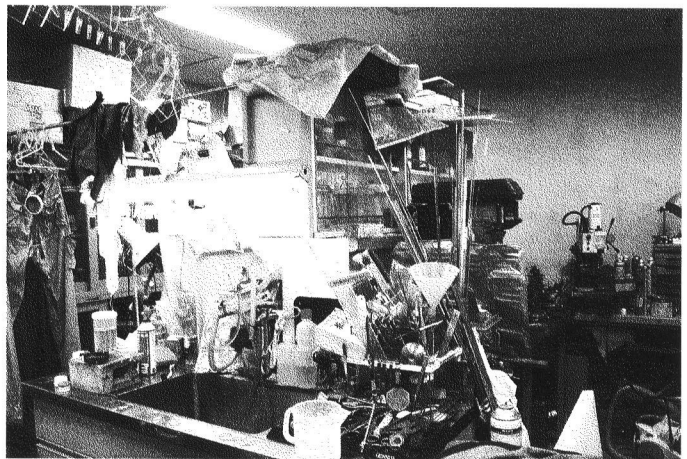


遠藤さん「誰か寝てるかもしれない...」

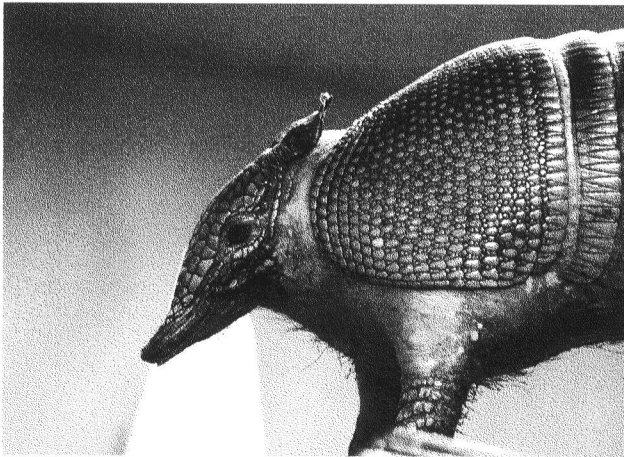
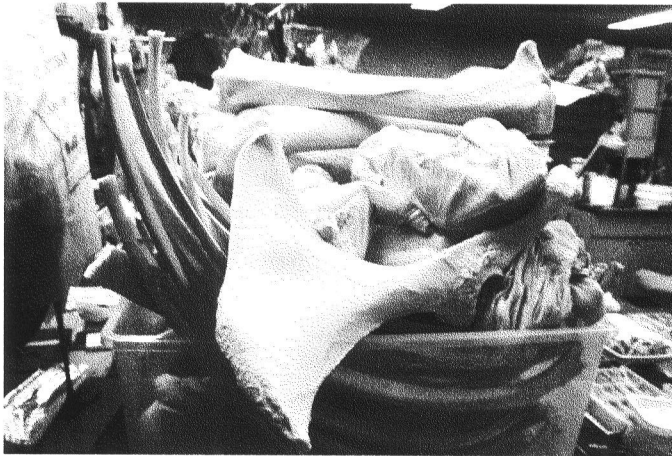
やはりあります、ホネの山。大きかったです。



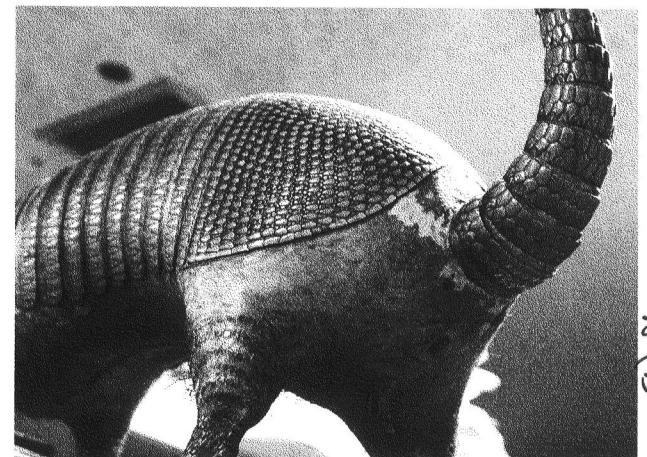
気になった年代物のせんぷうき。ステキ♪
今でも現役だ、と自信に満ち溢れたフォーム
でした。
今でも現役だ！



…はっ、いなかった。

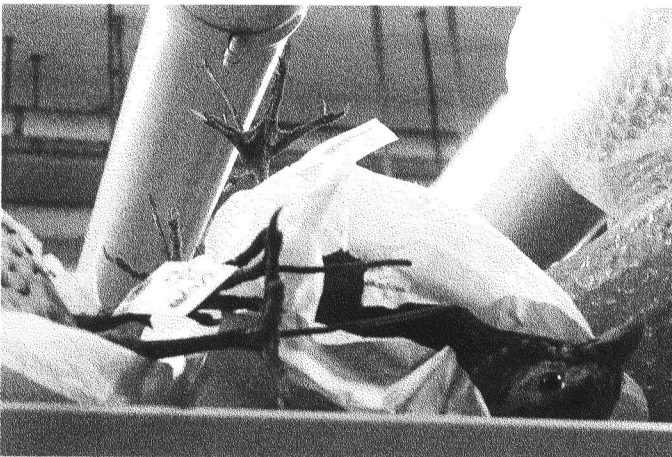


アルマジロ！

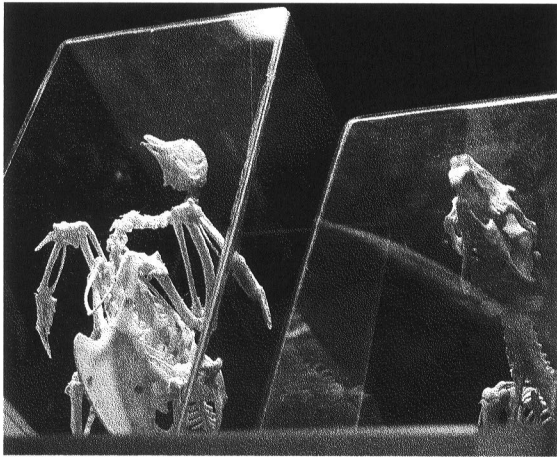


…おっ。

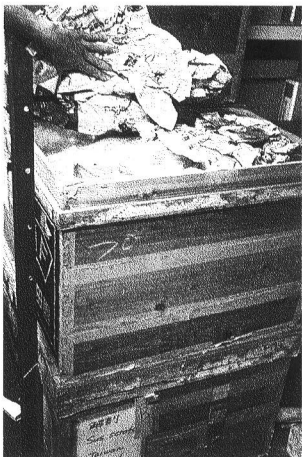
かじり
の



そこから収納室へ。ごろんと転がっていました。
ハコ、ハコ、の間に、カオ。一番いい体
勢保っていたのか？ なにが入っているかが
貼紙でしっかり書いてありました。



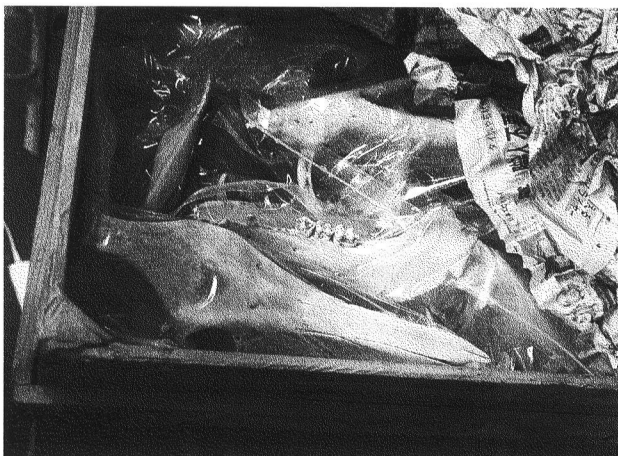
ゆりの歯が〜



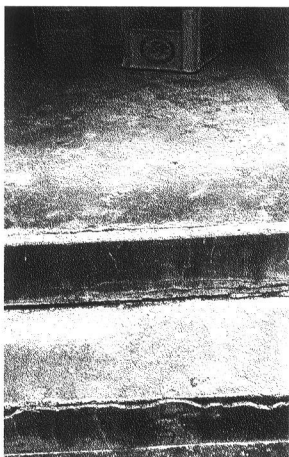
遠藤さん「これがすごくいいんですよ、便利だね。」
遠藤さんお気に入りへの収納箱。
それは昔の茶箱。



そして積み重ねる。



ミノシシがこんな風に収められていた。

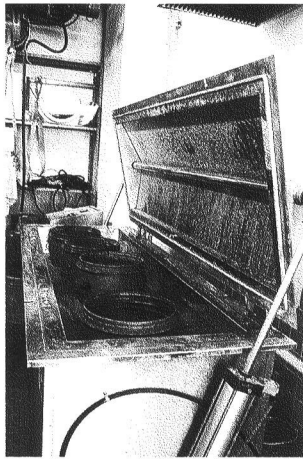


遠藤さん「このね、たった2段の段差が大変なんです。ホント大物を運ぶ時大変だった。」



ここから外へ移動しました。ここでゾウを解体したそうです。作業する場としてはたくさんの不便があることを話してました。
遠藤さん「あの一番奥のところからトラックがバックに入ってきて、動物の死体たちが搬入されます。」

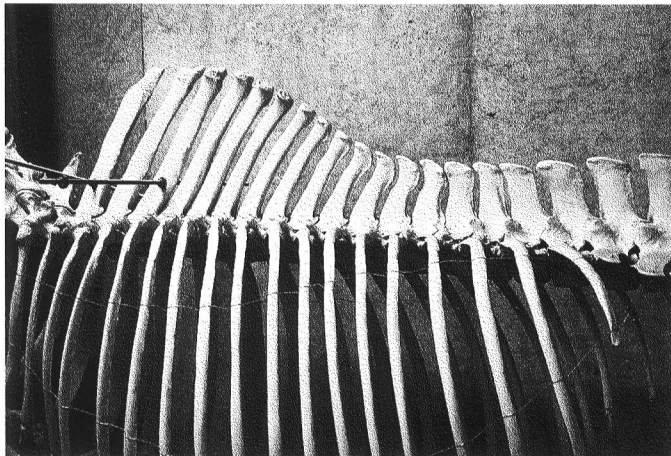
自動いよ。



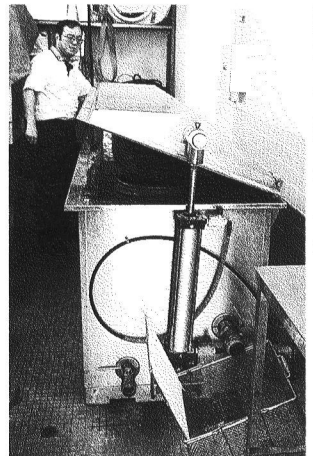
遠藤さん「作業するときはね、苦情を言われ
ます。血と死体を見せないで、つて。だから、
この窓でも青いビニールシートを張るんです
よ。やはり、7月の講演で話していたあの夢
の施設を!!
機械で今は圧力をかけていなくて、ゆでる、
煮るだけなのでそうです。



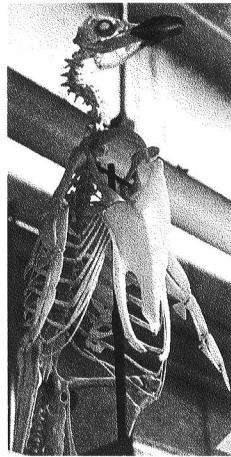
また事務所へ戻り、コーヒーをいただきな
がら。今の文部科学省?事務官?(難しかつ
た...)について、博物館のあり方と管理、研
究活動、学生の教育について談話しました。
遠藤さんはこれから、会議があるとのこと



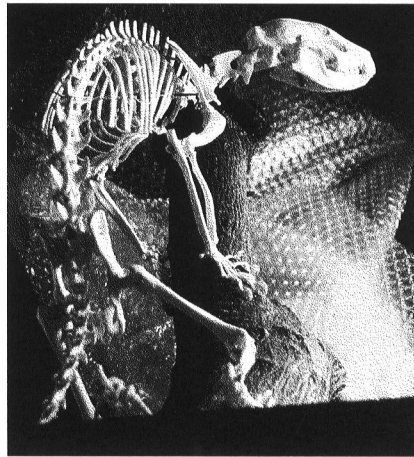
そして室内へ戻りました。これちよつと気
になりませんか。不自然にまつすぐでしょ。
...僕が作ったんじゃないんです!



遠藤さん「閉じまーす。」



PENGUIN!

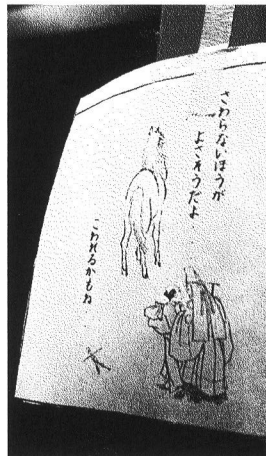


阿久津ノ

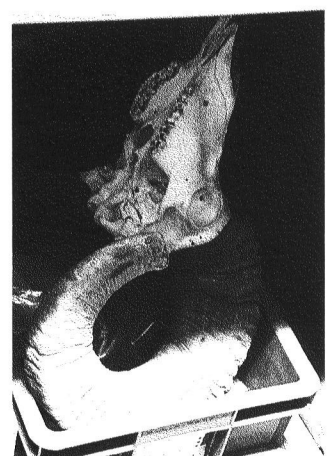
すので解散。1時間位でしたらとアポイント
をとっていましたが、2時間にもなっていま
した。本当にありがとうございました!!
このあと、乾さんの案内で国立科学博物館
へ行きました。もちろん地球館へ!

from
阿久津ノ

それは、たしかに。



さわらないほうがよさそうだよ...こわれるか
もね...



オオツノヒツジ!!

出張版

ほね本紹介

「解剖男」 遠藤秀紀

阿久津さんの記事を読んで、「遠藤さんってだれ？」と思った方もいるかもしれません。国立科学博物館の学芸員さんで、本も出されています。そこで数ある著作の中から2冊を紹介しちゃいましょう。

「解剖男」には、残念ながらマンドリルの歯並びについては載っていないが、もっと高度で遙かに面白い謎が詰まっている。例えばバイカルアザラシの巨大な眼球を小さな頭蓋骨に収めている方法。例えば「掌を返す」動きがヒトにできてトナカイにはできない理由。例えばブタとカワイル力を結び付けた「気管の気管支」と呼ばれる奇妙な器官。遺体から無言のうちに投げかけられるミステリーを、筆者は満員電車の中でさえもメスを握り、丹念に解き明かして行く。

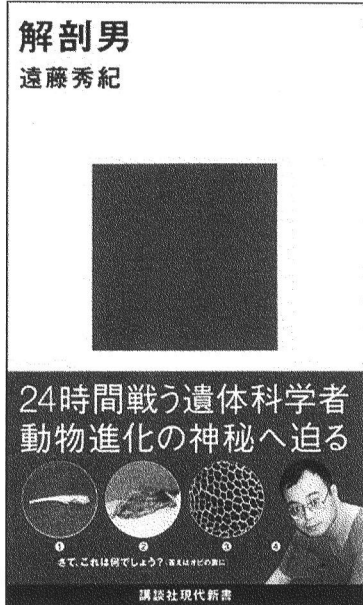
以前解剖したマンドリルのオスの写真を見ているうちに、ふと疑問が湧いた。前歯の歯並びが悪いのは、大きな犬歯が邪魔なために前歯がきれいに並べないせいだと思っていたが、同じように立派な犬歯を持つゴリラの前歯はきちんと揃っている。犬歯のせいじゃないとしたら、なぜ？こんなふうにして、解剖中に謎が出てくるのがよくある。

名探偵顔負けの謎解きに導かれて読み終わる頃には、いつもの標本候補たちを見る目も一味変わってくるはずだ。肉を取りながら、骨を洗いながらわいてくる疑問の一つ一つは、紛れもなく自分のものである。そしてその中には、世界中の誰もまだ答えを知らない謎が含まれているのかもしれない。

岩佐

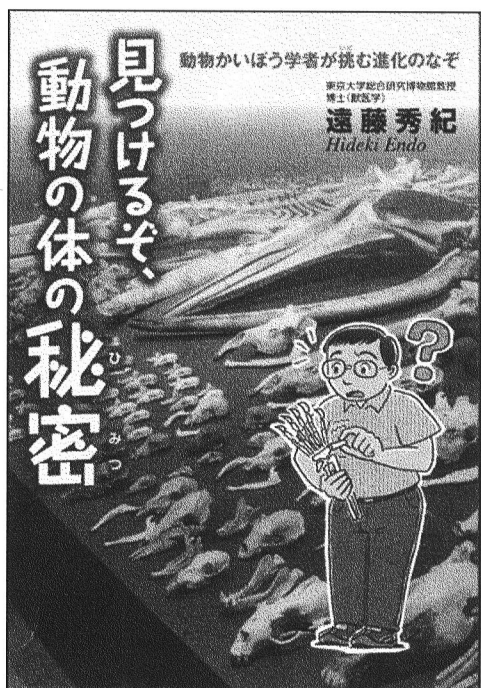
「解剖男」

著者 遠藤 秀紀
出版社 講談社 (2006/2/17)
ISBN 978-4061498280



「見つけるぞ、動物の体の秘密—動物かいぼう学者が挑む進化のなぞ—」

著者 遠藤 秀紀
出版社 くもん出版 (2010/9/1)
ISBN 978-4774317595



今回はこのコーナーで国立科学博物館の学芸員である遠藤さんが書いた「見つけるぞ、動物の体の秘密」という本を紹介します。

〃〃〃

ところで皆さん、パンダの指が何本あるか知っていますか？私はこの本を読むまでは六本だと思っていました。テレビで「パンダには実は五本の指以外にもう一本指があった」というのを見たことがあったからです。でも本当は七本ありました。七本目がないとうまく竹をつかめないそうです。図がかいてあつてよく理解できました。

子供にも読めるホネホネ本

この本は小学高学年以上を対象としているので、文の内容もわかりやすく図や写真もわりとたくさんついています。また、生き物と関わるのが少なくなってきた現代の中で（ホネホネの皆さまは普段から関わっていますが…）生き物の死を考える場面もあつたり、博物館の役割について語る場面もあつたりと、大切なこともたくさん書かれています。

〃〃〃

普段生き物に関わっている人も、そうでない人もぜひ一度は読んでみてください。生き物に対する好奇心がよりいっそう深まるかもしれませんね。

佐竹



京大ワークショップと

仙台での学会の活動報告

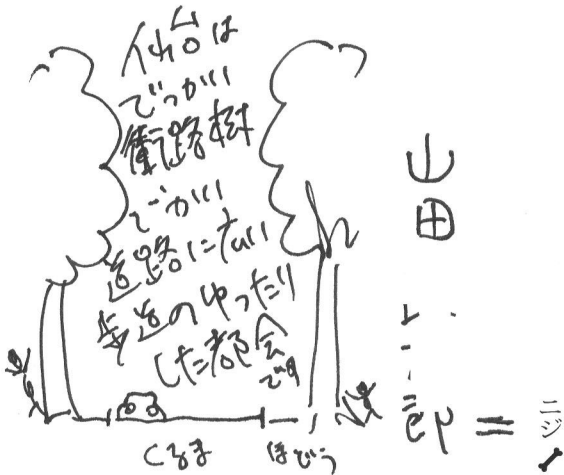
昨年の11月24日に京大病院小児科で活動されているボランティア団体「にこにこトマト」

さんと呼ばれ、団長がホネホネワークショップをしました。著者はスタップとして参加。多目的ルームはちよつと狭くて、ホネ団スタップ数名が中にいるだけでも「狭いなあ...」ともらすほど(笑)。まずは飾りつけをして、多目的ルームを「ホネホネモード」にします。入り口にはキリンの骨格の張り紙をしてインパクト大。中にも多数張りまくり、いつもの部屋を大改造です。飾りつけをしている最中にも入院している子供さんが寄ってきて「今日は何すんのん?」ときよろきよる。張り紙を見て興味津々のようです。しかも「今日は」の言葉から、にこトマトさんの日頃のスケジュールが見て取れます。聞くと毎日のようにイベントがあるようです。すごいなあ。

ワークショップの内容はホネクイズの後、実際のホネに触って五感で確認。そしてプラ板で好きなホネの絵を描いてストラップを作りました。最後に象の大腿骨と一緒に写真を撮ってワークショップはお終いでした。ワークショップで怖かったのは、点滴を受けている子のチューブが絡まることでした。スタップも気をつけなきゃ。

で、話はまだ続きます。このワークショップでの活動報告を12月12日に仙台で行われたアートミーツケア学会にて団長が発表されました。実際に行くまでは「アートミーツケアって何やねん」と首を傾げていましたが、ざっくり言うと病院や博物館でもっと色々活動しよう!という感じみたいです。お医者さんや大学の教授など現場で活躍しておられる方々の面白いお話が聞けました。団長の公演は「動物のかたちを楽しもうーホネホネ出前ワークショップの実践から」。公演後も活発な質疑があり、今後も色々活動の幅が広がりそうな感触でした。これからもワークショップスタップとして活動に参加して学びたいと思います。

ニジイ



ふたつの遠征ホネホネ団

@高知大学+せんだいメディアアテーク



2003年、動物の死体をいろいろ剥いて、みんなでワイワイイ。という趣味のサークルとしてはじめたホネホネ団。活動をはじめて3年ほどたった頃から、ふと気づくと博物館業界において「市民による専門性の高いサークル活動で元気に館を盛り上げる団体」という位置づけになっていました。団員数が激増したことで、博物館のコレクションづくりに直接貢献する人的パワーの面が目ざされ、団長のもとには全国各地の博物館から「うちにもホネホネ団がほしい」「どうやってホネホネ団ができるのか教えてくれ」という問い合わせが相次ぎました。そりゃあもちろん、標本づくりのお手伝いはホネホネ団の活動の成果でもあります。でも本当は、みんなでワチャワチャ動物をいじって遊んでいたいなどというのが動機です。なんだか便利屋みたいな面だけがクローズアップされておもしろくない、こういう主旨での発言を求められると「いやあ、神妙に解剖しなきゃいいんじゃないですかねえ」「突発的にアホな企画を立てるとおもしろがって人が集まりますよ」などしばらくのらくら逃げまわっていたのですが、大好きな博物館が盛り上がるならまあそういう役割でもいいかといまでは腹をくくっています。好きなことやってハクがつくのはいい

ことだしね。というわけで、2010年の冬、ふたつのシンポジウムと学会に行ってきました。

2010年10月24日

高知県には自然史博物館がありません。でっかい太平洋、クジラにウミガメ、カワウソ最後の生息地、と生きものと自然の宝庫のような土地ながら、標本を収蔵する施設がなく、高知県の自然の財産は県外にほとんど流出している状況です。ここで、県内に標本を残し、それを維持し、博物館の開館へつなげようと活動している方達がいいます。NPO法人四国自然史科学研究センターさんです。こちらと高知大学がいつしよになって開かれたのが「シンポジウム「高知の自然の情報を記録する」」です。

シンポには生物標本にかかわる活動を展開している4名が講演者として招かれました。国立科学博物館の川田伸一郎さん(モグラ博士で有名)は、そもそも標本を残すってどんな意義があるのかを紹介。わたしは「標本づくりで広がるネットワーク」として、大阪市立自然史博物館も建物なしの貧乏生活を何十年も続けてからできた博物館で、その間の標本収集は多くのアマチュアの市民たちが担ってきたこと、標本づくりを通していろんな世

代が博物館に流れ込んでいるホネホネ団の状況を紹介しました。北九州市立いのちのたび博物館学芸員の上田恭一郎さんからは、「市民活動がささえる博物館」として、JRの駅舎二階から始まった博物館作りの過程が紹介されました。高知県立牧野植物園で、高知県植物誌の編纂をされた坂本彰さんは、県民と協力して数(十?)万点の標本を収集し、充実した植物誌を作り上げたこと、そのための受け入れ態勢や標本データ整理の仕組みについて話されました。



会場の後方では、四国自然史科学研究センターが救出したいくつかの高知県産標本が展示されていました。もちろん、我がホネホネ団もつかいスペースを確保。それというのも、大石 団員が夏休みの自由研究としてあげたアライグマの全身標本セットをこのシンポのために展示してくれたからなのです。毛皮にホネに内蔵、そして手書きの製作ノートはひときわ注目を集めていました。さらには学校への通学途中に拾ったシリーズの標本箱もあり、こうした人材を育てていきたいと願っている主催者の谷地森さんはむちゃくちゃ喜んでいました。大石 団員の存在そのものが、地域に博物館がある意味を見事に体現していたからと言えましょう。神戸から車を運転して高知入りしてくださった大石 団員一家、ありがとうございました。



夜は主催者と関係者で街に繰り出して打ちあげ。分厚く切られた刺身が大量に盛られて

左：大石 団員の標本



いる「さわち料理」を堪能させてもらいました。高知は食べ物がおいしすぎます。あと、団長個人としては伊丹空港から高知竜馬空港までのボンバルディアでの旅と、着陸直前に

高知湾上空から見たニタリクジラ(ピンクがかかった紡錘形)、うわさの日曜市体験が最高でした。またいきたいな！



2010年12月11・12日

博物館からホネを届け、みんなで楽しむホネホネワークショップ。2010年、山梨と京都の病院で行ったふたつのワークショップ

実践を、アートミーツケア学会2010年度
大会で報告してきました。



この経緯は2008年の春、松下団員と
行った「花王コミュニティミュージアム・プ
ログラム」の贈呈式にさかのぼります。こ
こに同じ助成仲間として、山梨大学病院小児
科の犬飼先生が来られていました。犬飼先生
は、山梨大学付属病院の小児科病棟に長期入
院する子どもと家族のために、潤いのある入
院生活の提供を目指して活動を行っていま
す。私も小さい頃、ヒマでしかたない長期入
院をしていた経験があり、この「小児科病棟
はみんなのミュージアム」というプログラム
にすっかり感動してしまいました。ちょうど
一年目の助成で作ったホネたちを外に持ち出
す出前企画を考えていたこともあり、何か一
緒にできることがあったらぜひ声をかけてく
ださい！と固い握手を交わし名刺を押し付け
て会場をあとにしたのです。そして、2年
後、念願のコラボ企画が実現。ひとつめは7
月17日に行った犬飼先生の本拠地山梨大学付
属病院。ふたつめが11月24日の京大病院小児
科病棟でのワークショップです。京都では、
小児科のプレイルームのプログラム運営をさ
れているボランティアサークル・にこにこト
マトさんに受け入れ先になっていただきました
(京都での詳しい内容についてはニジ団員
の報告をご覧ください)。



ところで、アートミーツケア学会とは、ケ
アにおけるアートの役割を研究する場として

立ち上がった学会です。音楽家、舞踏家、美
術家、デザイナー、障害者や老人などさまざ
まな福祉施設で働くひとたち、世代間コミュ
ニケーションの研究者などいろいろな立ち
位置の人がごちゃっと集まっています。私た
ちは大会2日目に、ケアの現場での実践報告
というテーマの分科会で報告をしました。と
はいえ、大会申し込みのときから頭の中は
ぐるぐる。まさかホネホネ団が「医療の現
場」なるものに関わることになるうとは思
いもせず、学校や図書館にいくのと同じワー
クショップを病院でやってみた、というだけ
だったので、どのような位置づけで私たちの
活動を紹介したものか最初はとまどいまし
た。まあ自然史博物館が病院に乗り込むの
てそんなにはない実践だろうから、変わり種
として話題提供になればいいなと開き直るこ
とにしました。



15分という短い時間でしたが、実際にホ
ネにさわって感じるリアルな動物の形態、そ
の迫力やおもしろさのこと、ホネの観察だけ
ではなくホネをテーマにしたお土産の工作と
組み合わせることで、その作品を「体験と記
憶を持ち帰るためのツール」とし、参加し
た子どもと家族や看護士さんとの会話につな
がってもらえたらと考えたこと、博物館は自
然の魅力を伝えるたくさんの資料(標本)を
持っているけれど、その中でもホネはアレ
ギーや感染についてそれほど神経質になら
ないですみ、院内に持ち込みやすい標本なの
では?というのをだだだつと話しました。

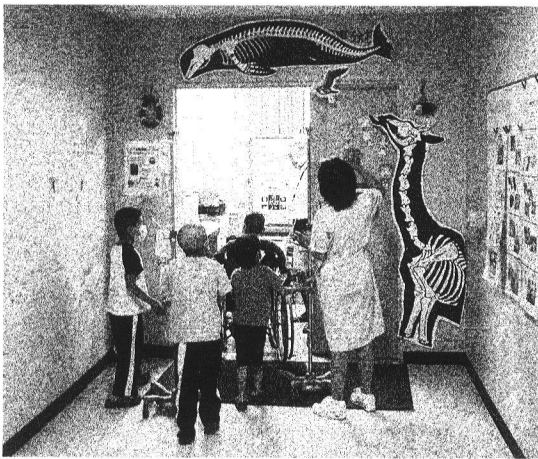
最後に各地の博物館での貸し出しキットの存
在(学校などへの貸し出しを想定して作って
いるけど、誰でも借りられる)と貸し出し方
法を紹介しました。



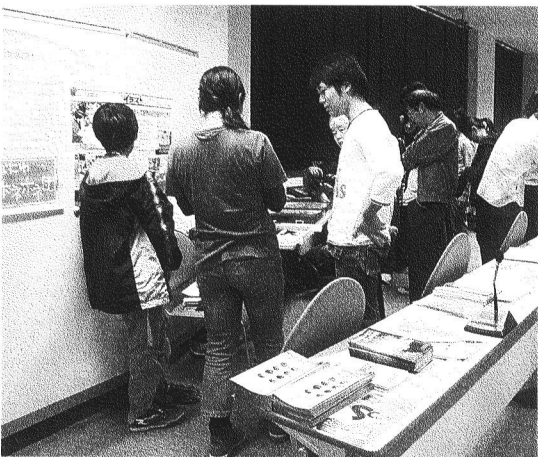
ほかの団体さんでは、一万個の無垢の積み
木を車に積んであちこちを巡る木楽舎つみ木
研究所、山梨で出張プラネタリウム活動を行
う山梨県立科学館サイエンスシアター、
星の語り部のみなさんからの報告がありまし
た。全体のまとめでは、「ない」ところに、「あ
る」をとどける」こと、そのためには間をと
りもつ人の出会いと役割がやっぱり大きいこ
と(どこでもそうですが)、そして花王のよ
うな、ちょっとだけ背中を押してくれる助成
金があると、思いつきが実現しやすいなあ
というような話で締めくくられました。



最初は場違いでないかと焦ったこの大会で
したが、そういえば、ホネホネ団のテーマは
「おもしろおかしく活動しよう」でありまし
た。わたし自身も新しいことやかわったこと
をするのが大好きです。今回のように自然史
博物館以外の場所で、ホネホネ団にちがった
側面の価値を見いだす人がいて、少しでもそ
のひとたちの役に立てるならやっぱりうれし
い。ホネホネ団が博物館そのものではなく、
ただの1サークルである自由さはこういうと
ころにあるのかもしれない。これからも声
をかけてくれた場に可能なかぎり応えていけ
たらと思います。団員のみなさんで、何か企
画を持ち込まれたら、ぜひぜひご相談下さい。
なるべく実現させ、企画力と実行力のホネホ
ネ団として日本の頂点を目指しましょう。



右：山梨でのワークショップ



右：高知でのシンポジウムの様子

活動報告

骨アクセサリーの作り方

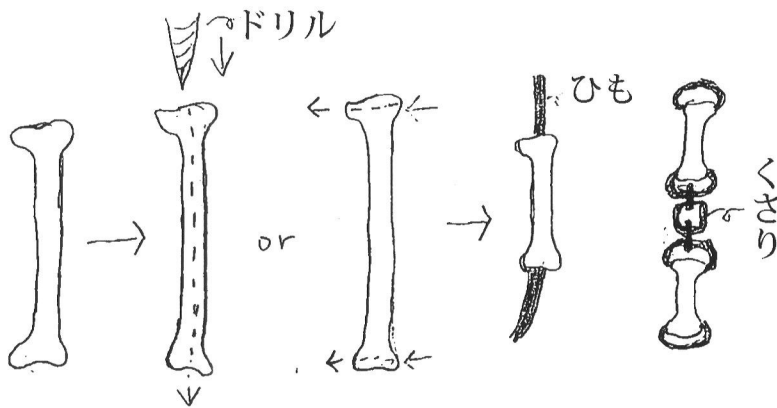
今回、この記事執筆することになりました近畿大学農学部所属、団員No.112、フナコシです！↓名前だけやと誰かわからないと思うので一応、モジャモジャでピアスいっばいつけてるやつとだけ書いてきます。

ポリデントに漬け過ぎたり腐らせ過ぎてバラバラになった骨。それが例えばへびの全身骨格だったり、アライグマなんかの指の骨だった、って経験はないですか?! 根気のある人だったら組み立てるけど、めんどくさいってなるのがほとんどかと思えます。ちなみに、ボクは後者ですwww。そこでこのバラバラになってしまった骨を有効活用しようとしたのがきっかけで骨グッズ作りを始めました。

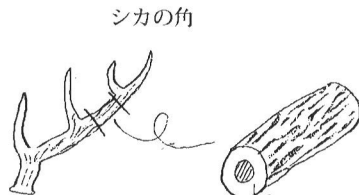
- 用意するもの
 - ・標本にするのをあきらめた骨(別に使いたい骨があればそれでも構いません)
 - ・ひも(革や麻などいろいろ・鎖でもOK)
 - ・各種金具(ネックレスなどの留め金やピアスの本体)
 - ・工具(ノコギリ・ヤスリ・キリ・ペンチなど)
 - ・ビーズ
- 骨は基本的には小さい物を使用しますが、

鹿の角なんかは自分の好きな長さに切り、ヤスリで削って形を整えて使います。小さすぎたり薄すぎると穴をあけた時に割れる可能性があるのでパーツ選びは慎重に!

○作り方
まず骨の組み合わせ方ですが、いろいろある中でいくつか例を挙げておきます。



・背骨
・角



中心部はスカスカなので、周辺部を使用する。また、アブラ分が多いのでオキシドールに浸けて脱脂した方がよい。

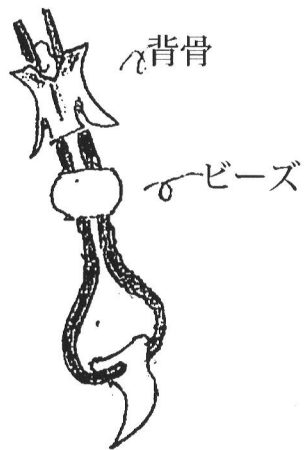
ここに記したのはあくまで例えです。組み合わせ方は人それぞれあると思います。実際に作る時は自分が良いと思った組み合わせ方で構いません。

ここからは骨ストラップの作り方を紹介します。ちなみに、これはボクが作ったストラップの作り方です。(下図)

- ・まず、ストラップの先端につけるパーツを選びます。
- アライグマの爪または豚足の爪
- ・穴をあけてひもを通します。



・ひもを2つに束ねてビーズとへびの背骨を通します。

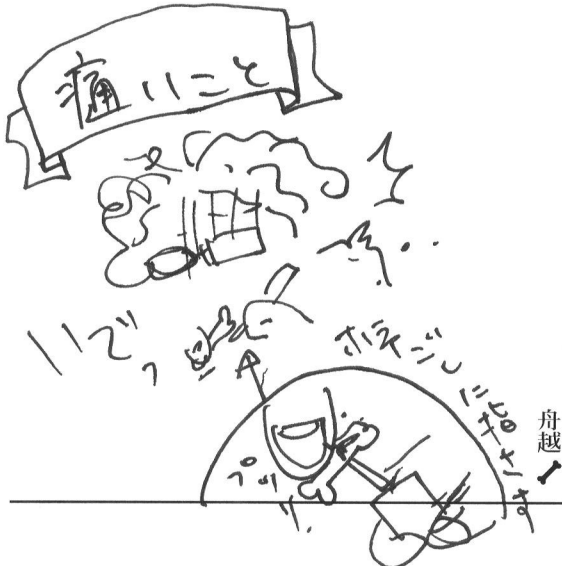


最後に留め具でとめてストラップの金具をつければ完成です

金具



みなさんいろいろな骨アクセサリーを作ってみてはいかがでしょう!



私物 骨格標本

金魚の骨格標本

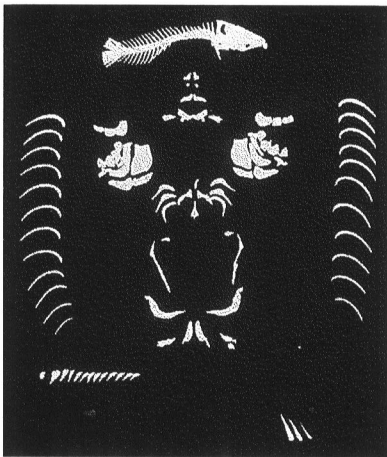
ホネホネ団には私物の標本を所有している方が多数いると思われます。拾ったホネや、組み立てたりもらったホネ、ホネにする予定の死体など。さまざまな私物標本も紹介していきたいと思います。

①知り合いから②知り合いに魚の骨格標本を作る人がいると聞いて去年の9月に下関へ、2泊3日の武者？修行に行ってきました。

①知り合いは副団長さんとも親しい方でフリーで熊の調査されている方でした。2009ホネサミットでも出品していたそうです。私は別業界つながりだったのでホントめっちゃくちゃビックリしました。師匠はチヌ師で、本職は別にあるのですが、釣り業界の方でした。

軽く工程を書きます。

- ・ 解凍した金魚の鱭という鱭を全部ハサミで切り、紙などにきれいに伸ばして貼り付け乾燥させておく。
- ・ 体は軽く蒸して、左右前後をしっかりと分別しながらホネを外していく。
- ・ そのホネを薄めた洗剤水の中に浸けて数時間後、ホネをひとつひとつピンセットをつまみ、漂白剤にくぐらせます。



阿久津

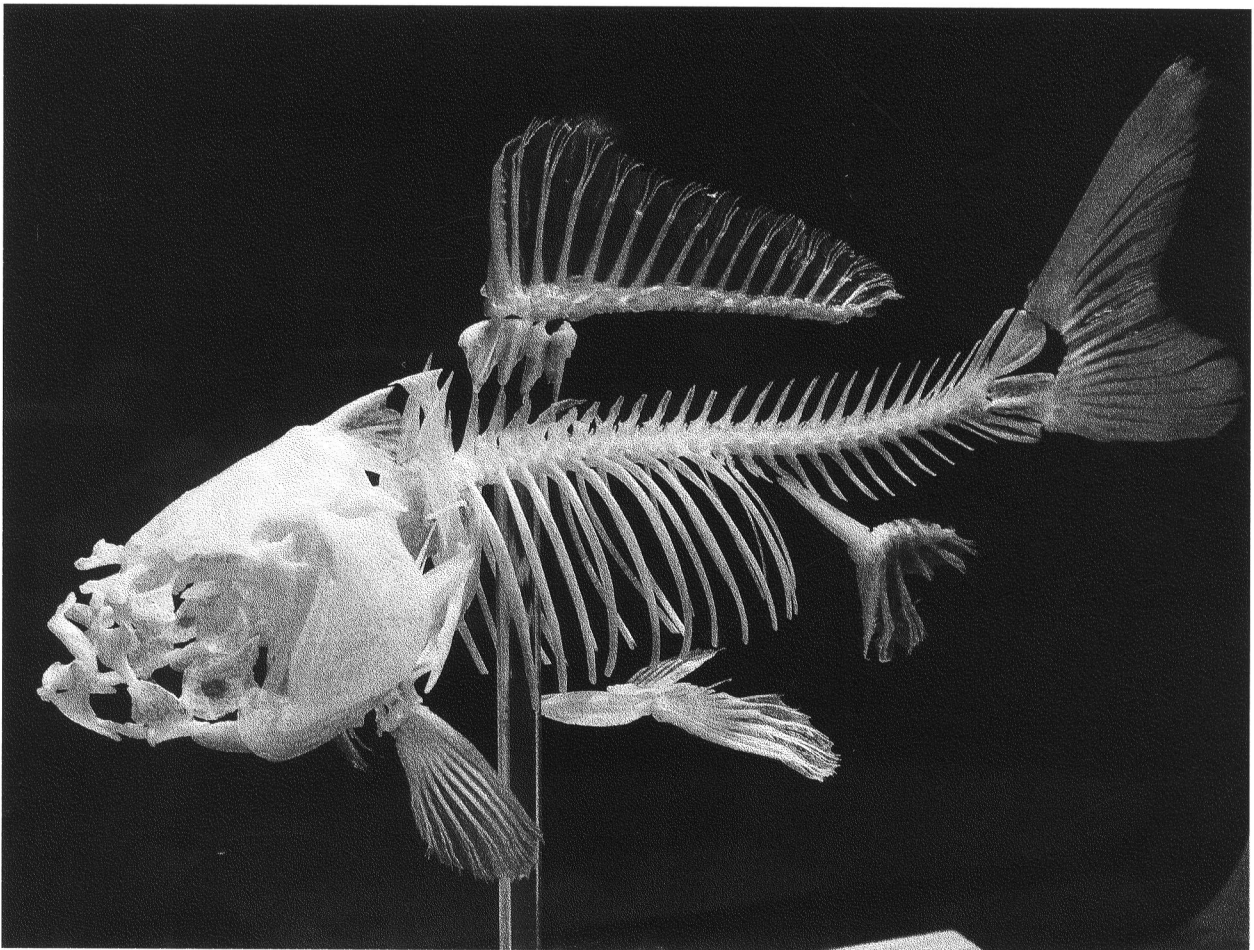
・そしてホネが目立つよう黒いものの上にホネを並べていきます。

・ 一体になっている頭と背中のホネ部分はこの時点で吊る下げて乾燥させておく。(背骨の曲がり具合を調整しながら、バナナ置きが便利です)

・ ちゃんと乾燥したのを確認して、アロンアルファで接着していく。バランスの良い形作りが大変です：軟骨がなくなっているので、そこをどうカバーするかも問題です。

やり方は基本的に決まっていなくて、手引きも特にないそうですので他に良い方法がたたくさんあると思います。もし情報がありましたら、ぜひ教えていただけませんか。

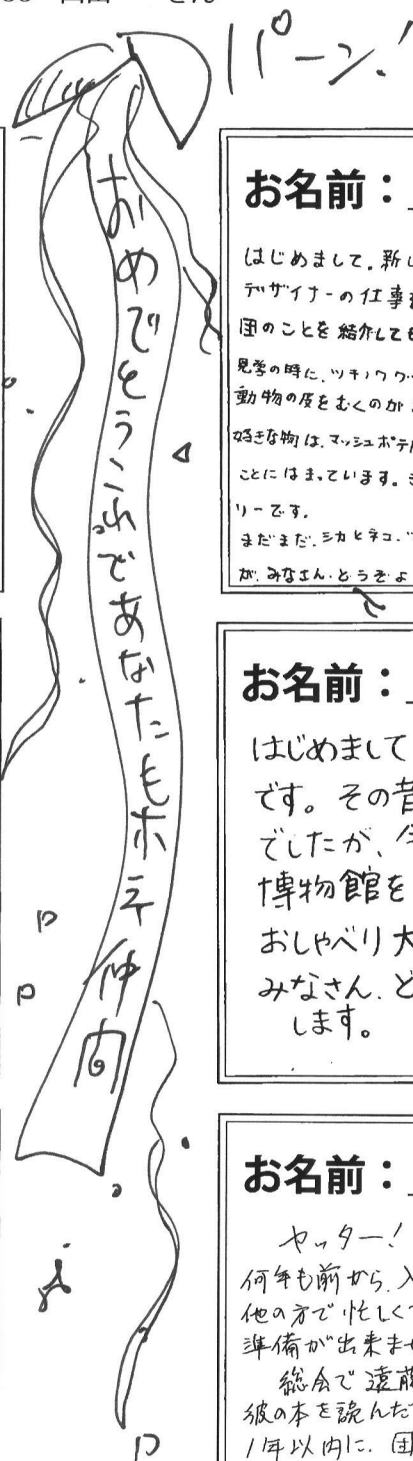
下関といえば「海響館」行ってきました。そして、別に展示室を設けているシロナガスクジラの骨格標本は夜でもガラス張りなので見れますよ。ちゃんと警備員さんが立っていて、中に入れるようにしてくれています。接近展示なので、体長26メートルがすものすごく大きく感じました。



2011年1月～2011年4月に入団試験に合格した方々です。


新入団員紹介

- 団員 No.183 染矢 さん ●団員 No.186 野々宮 さん ●団員 No.189 竹内 さん
- 団員 No.184 多葉田 さん ●団員 No.187 香川 さん ●団員 No.190 林園 さん
- 団員 No.185 多葉田 さん ●団員 No.188 山田 さん



お名前： 上田


だいぶ前に入団したのですが自己紹介が
おくれしていました

動物は、虫はちょっと苦手ですがほとんど好きです
あ、肉球が大好きです。  フニ
フニ

ホネホネ以外の趣味は、
業動画サイトで音楽を聞いたリ
マンガを読んだり、アニメ見たり、わりとフツーです。
こんな私ですがよろしくお願ひします。


お名前： 染矢

はじめまして、新しく入団しました、染矢 です。
ツナグマの仕事をや、ている、団員の方に、ホネホネ
団のことを紹介してもらって入団試験を受けました。


見学の時に、ツナグマの手をむいて、感動？ 
動物の皮をむくのかこんなに楽しんだなと思いました。

好きな物は、マッシュポテト、こんにゃく、最近、ケシコムをほんこを作ら
ることにまっています。おしなをの、は、奥のカキとマヨネーズ、フロ、ゴ
リーです。
まだまだ、シカヒネコ、ツナグマの手しかむいたことがありません
が、みなさん、どうぞよろしくおねがひします。

お名前： 多葉田

虫&ほにゅう類、サイコ、もう虫はほ
んど大好きで特にクワガタが大好き
です。犬や猫も大好き？ かし、実は
猫アレルギーでした。 
猫はダメですがよろしくお願ひします。

お名前： 多葉田

はじめまして！ 入団しました多葉田
です。その昔友の会のユース会員
でしたが、今は子供たちと自然史
博物館を満喫しています！
おしゃべり大好き、お酒も大好きです。
みなさん、どうぞよろしくお願ひ
します。 

お名前： 野々宮

学校のクラブでニワトリの骨格標本
を作って、骨に興味を持ちました。
好きな生き物は、甲虫類です。
これからよろしくお願ひします。

お名前： 香川

ヤッター！ ありがとうございます。
何年も前から入団したいと思っていましたが
他の方が忙しくて、なかなか受け取り気持の
準備が出来ませんでした。
総会で遠藤ひできさんの話に聞いて
彼の本を読んだりして、ますます入団したくなり、
1年以内に、団員さんに「入団するのには難しいの？」
とか、色々聞いて、やっと、テラを受けました。
これからよろしくお願ひします！！

お名前： 山田

普通のOLのふりをしてから 漆と日本画をやってます。
ホネ団のことは何年前から知って
興味があったので「あが」なかに
機会がたいて...。去年の年末、団員の
Aさんと偶然知り合って 入団を
決意しました。 よろしくお願ひします。

お名前： 竹内

愛知県からやってきました、入団できてうれ
しいです。😊 今日は、観望会の仲間と
自然史博物館に来るにかわがいて、試験を受け
ていいおたよりいふ、と言ってもらえたので受取
ました。ト足や、魚の頭骨標本を作ったことがあ
りますが、これからちゃんとラベルアップしていくら
かと思ひます。息子が、この近くで下宿している、時
は、伺いたいです。 よろしくおねがひします!!

お名前： 林園

見学初日から 皮の肉取りと皮はぎをさせて
いただきました。いきなり?!と思ひましたが、
丁寧に教えていただいたので、とても楽し
できました。そして2日目には無事に入団試験
合格できました♡ ありがとうごさいます!!
これからも よろしくお願ひします☆



左右：入団試験中

たぶんか
の「ア」の「カ」
「ア」の「カ」からたぶん
「ア」...

↑
香川団員

↑
竹内団員
かな?



1月23日

参加者数：33名

ハシブトガラス5体、ニホンジカ3体、ハクビシン1体の皮剥き。タヌキ5体、ハクビシン1体、ノウサギ1体、ブタ1体、ニホンジカ1体、エランド1体の皮の処理。ニホンジカ3体、ハクビシン1体、タヌキ2体の肉取り。年末に続き皮処理重視。



2月5日

参加者数：24名

ヌートリア6体の皮剥き。タヌキ3体、キツネ1体、イヌ1体、アライグマ2体、ハクビシン2体、ネコ1体、ノウサギ1体、トムソンガゼル1体の皮の処理。ヌートリア祭り。



3月13日

参加者数：38名

ルリビタキ1体、マミチャジナイ1体、シロハラ4体、ツグミ1体、スズメ2体、アライグマ1体、ヌートリア1体、イノシシ1体の皮剥き。アオウミガメ1体、スナメリ(頭

なし)1体の処理。ヌートリア3体の皮処理。

タヌキ1体、キツネ1体、イヌ1体、アライグマ2体、ハクビシン2体、トムソンガゼル1体の皮引つ張り。久しぶりの皮引つ張り。



4月29日

参加者数：27名

ニワトリ1体、タシギ1体、ハシボソガラス1体、タヌキ1体、アナグマ1体、ニホンジカ1体、ミニブタ1体の皮剥き。ヌートリア3体、ニホンジカ2体、エランド1体の皮を干した。皮の処理を少々。春のホネホネマラソン初日。大きな穴を掘って、たまっていた肉を埋めた。



4月30日

参加者数：26名

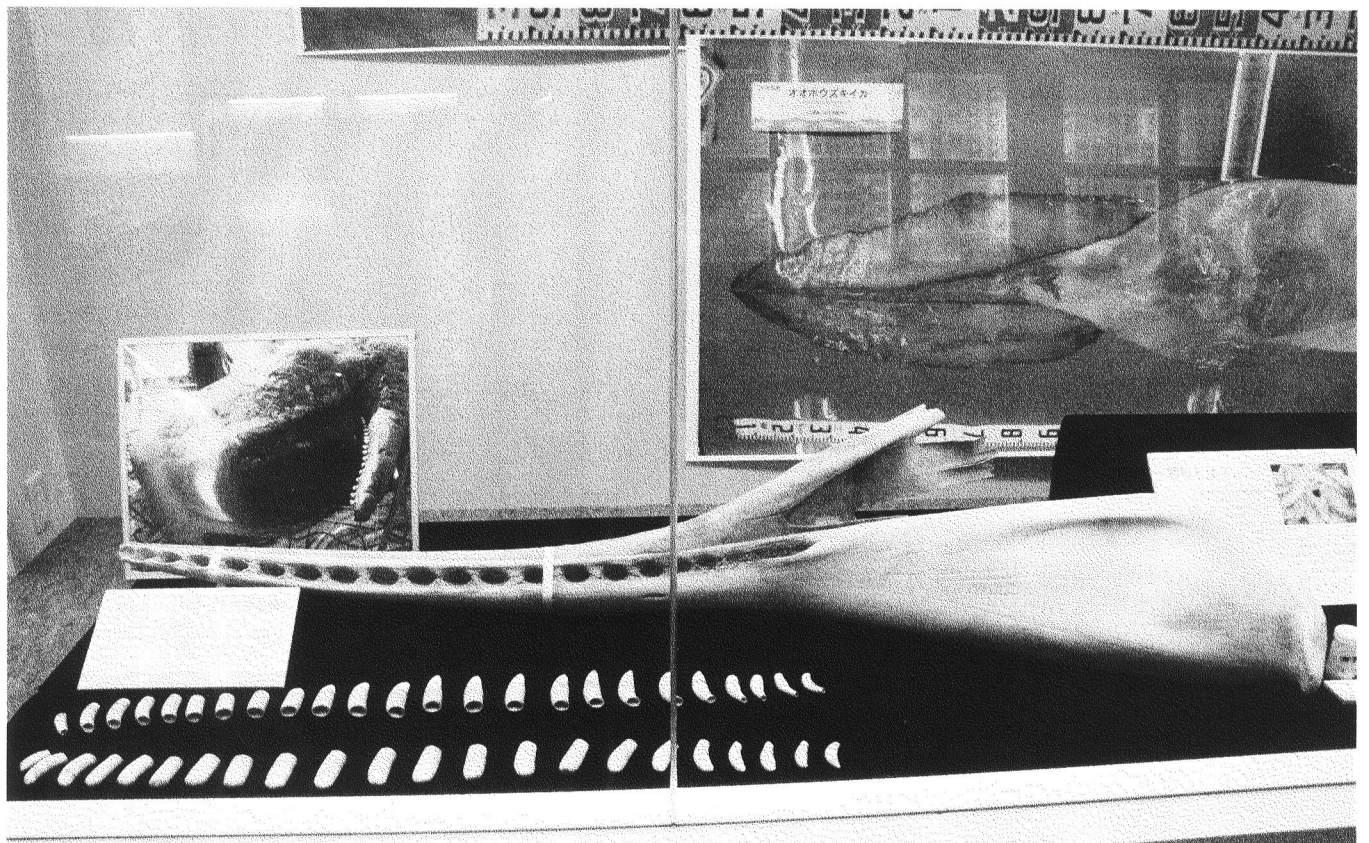
トラツグミ1体、ヒヨドリ1体、オシドリ1体、タヌキ3体、アライグマ1体、オオヒキガエル2体の皮剥き。ニワトリ1体の皮剥き続き。ヌートリア2体、タヌキ1体などの皮の処理。春のホネホネマラソン2日目。水に浸けたホネの整理もした。



5月1日

参加者数：28名

トラツグミ1体、ヒヨドリ1体、ツグミ1体、シロハラ1体、イカル1体の皮剥き。ニワトリ1体の皮剥き続き。ヌートリア2体、タヌキ2体、ネコ2体、アライグマ2体などの皮の処理。春のホネホネマラソン最終日。



上:あのマッコウクジラ(12号参照)がついにデビュー! 特別陳列「お披露目! 博物館に届いた新しい標本」にて歯と下顎、胃内容が展示されました。

広告

— 好評発売中! —
『猫にもできる豚足くん』

乾久 : 著
2008年刊 12ページ
簡易製本 価格 300円

わかりやすい!



かっこいい!

取材記録と

遠征報告

1月

【取材報告】 山梨大学医学部付属病院

病院だより 『はなみずき』

2010年7月の小児科病棟でのホネホネ

ワークシヨップの様子が掲載されました。

【遠征】 8日 大阪府貝塚市二色

アカウミガメの死体回収

【遠征】 15・16日 きしわだ自然資料館

ワークシヨップ (鶏頭の骨格標本作り)

【遠征】 21日 京都精華女子中学高等学校

講師

2月

【遠征】 19日 奈良たんぽぽの家
セミナー

【遠征】 26・27日 岐阜

ホネホネ会宿

3月

【遠征】 2日 豊中市理科教員研修会

ワークシヨップ

【遠征】 13日 静岡科学館

講演&ワークシヨップ

【遠征の予定】

2011年7月

京都の城陽市青谷コミュニティセンターでホ

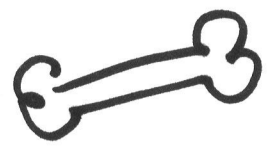
ネワークシヨップ

2012年4月

五月山児童文化センターで手羽先標本の作成

たは

あの伝説の夏が帰ってくる!



ホネホネ団2011

2011.10.8 ~ 10 至大阪市立自然史博物館

ただいま
出展者募集中!

HPから申し込み
フォームに
ついでに



ゲスト 台湾より

詹徳川 Chan, Te-Chuan さん

通訳 張東君 さん

台北動物園でオリジナルグッズ
いろいろ

hone2011@mus-nh.city.osaka.jp

URL <http://www.omnh.net/npo/hone2011/>

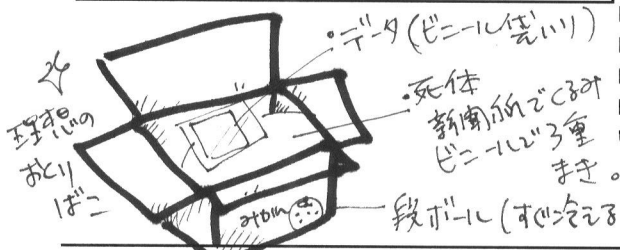
なにわホネホネ団からのお願い

死体は重要な標本です。ぜひ回収して博物館まで届けてください。届けるときにはビニール袋で3重ぐらいにくるんでください。直接持ち込むほか、冷凍の宅配便も利用できます。着払いでも結構です。その際、内容は「標本」「サンプル」とお書き下さい。

送ったり、持ち込んだりするとき、ホネホネ団まで連絡をください。標本の採集日、採集場所（地図のコピーに印でOK）および採集者の名前を書いたメモを同封することを忘れなく！

お問い合わせ先

大阪市立自然史博物館
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp>
 動物研究室 和田学芸員
wadat@mus-nh.city.osaka.jp



ホネホネ団の公式ウェブサイトができました！



なにわホネホネ団

click!

主なコンテンツ
 ホネホネ団とは
 入団・見学について
 ホネホネ団通信バックナンバー
 ホネホネパブリッシング入口
 死体に出会ったら
 団員の個人ページ紹介
 関連グッズ紹介
 (↑5月下旬アップ予定)



ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/naniwahone/index.html>

編集後記

記事募集

遠征特集号、いかがでしたでしょうか。ホネホネ団員の活動は幅広く、叩けばまだまだ「ホコリ」が出てきそうですが、今回はこの辺で。他にも「こんな活動しているよ」って方はどしどし原稿を編集まで送りつけてください。ちなみにホネホネ団通信は以下の方針によって編集されています。

- ① いろんな人に書いてもらおう。
- ② 読んで何か得をすること。
- ③ もらった原稿はすべて載せる。

ホネに関することなら何でもウエルカム！どんな形式でも受け入れて出来るだけ最新号に間に合うように努力しますので、皆様ご協力をお願いいたします。

ところで、一部から編集子が怖いとか原稿の取り立てが厳しいなどの噂が流れているようですが、全くの**事実無根**です。待てと言われれば素直に待ち、大して催促もしていません。このような悪質なデマにより、原稿の依頼を断られるなどの風評被害が出た場合、流出元を特定し、被害相当の原稿を補償して頂きますのでご了承ください(笑)



ホネホネ団通信では、常に原稿を募集しています。原稿用紙半分程度の短いものから超大作まで幅広く受け付けています。手書きでもパソコンでもOK、イラストや写真もありです。投稿方法は電子メール、博物館へ郵送したり持つていく、活動日に手渡しなどです。送料や交通費は自己負担でお願いします。内容はホネに関すること全般ですが、例えば：活動報告・活動日にこんな作業をした、ホネホネ団の活動でどこかに行った、ホネを見に行った、死体やホネを拾った、入団試験を受けたなど、何かしたら記事を書いてください。私物標本・個人で色々拾ったり組み立てたりしている方も多いと思います。拾ったホネ、組み立てたホネ、組立中のホネ、ホネにする予定の死体など、何か持っていたら写真とエピソードを寄せてください。

本紹介・ホネに関する本を紹介してください。読書感想文の宿題が出たら、ホネに関する本にして、ホネホネ団通信にも送ろう！

他にも編集から色々記事を依頼しますので皆様よろしくお願いいたします。

ご了承ください

作成の手間を省くために原稿の校正を編集が勝手にしています。大幅変更は投稿者に確認しますが、内容が変わらない程度であれば通知しないことがあります。

ホネホネ団通信編集 佐竹 誠
ged03100@nifty.ne.jp